令和３年度

公共ホール邦楽活性化事業報告書

一般財団法人 地域創造
Japan Foundation for
Regional Art-Activities

■はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的な文化・芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、地域における文化・芸術活動を担う人材の育成、公立文化施設の活性化支援、情報提供、調査研究などの事業を実施しています。

これらの事業の一環として地域創造では、平成22年度から都道府県や政令指定都市を対象とした邦楽地域活性化事業を実施してきましたが、令和３年度から対象を市町村等に変更して「公共ホール邦楽活性化事業」を実施しています。

公共ホール邦楽活性化事業は、アウトリーチの研修を終えた邦楽の演奏家と、専門家であるコーディネーターを市町村に派遣し、公共ホールと演奏家が共同で企画した参加体験型の地域交流プログラムと、コンサートなどのホールプログラムを実施するものです。地域創造では、本事業を通じて、公共ホールの利活用やホールスタッフの企画・制作能力の向上、日本の伝統音楽の継承発展、創造性豊かな地域づくりを支援しています。

令和３年度は、５団体で実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により１団体が中止（令和４年度に延期）となり、４団体での実施となりました。

この報告書は、全国４の団体との共催により実施された、「令和３年度公共ホール邦楽活性化事業」の内容を取りまとめたものです。報告書の中では、実施団体からの報告に加え、担当者による、事業を実施しての成果や反省点･課題を掲載しております。また、各団体に派遣されたコーディネーターによるレポートを掲載し、事業に関して気づいた点や、企画･制作のノウハウ、事業を実施する過程において生じた様々な課題や問題点を、ケーススタディとして記録しています。あわせて、邦楽アウトリーチの実例として各地域交流プログラムの進行シートを掲載しています。

全国の地方公共団体ならびに公共ホールのみなさまにおかれましては、邦楽に関する地域交流プログラムも含めた自主事業にお取り組みいただき、本報告書をご活用いただければ幸いです。

終わりに、各公演を主体的、積極的に実施いただいた実施団体、各地域に寄り添ったプログラムを実施していただいた演奏家、事業の実施にあたり貴重なアドバイスやご尽力をいただいたコーディネーター、その他多くの関係者の皆さま方のご協力のもと、令和３年度の事業を実施することができましたことに対して、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

一般財団法人地域創造

目　次

Ⅰ.　**令和３年度公共ホール邦楽活性化事業の概要**…… 5
実施概要…… 6
事業の流れ…… 7
実施体制・実施日程…… 8
演奏家プロフィール…… 9
全体研修会実施概要……11
チーフコーディネーター報告：児玉　真……12

Ⅱ.　**令和３年度公共ホール邦楽活性化事業報告**……13
＜福岡県豊前市＞
実施団体報告：松田　弥生（一般社団法人豊前市芸術文化振興協会）……14
コーディネーターレポート：米澤　浩……20
進行シート：丹羽　梓……22

＜三重県伊賀市＞
実施団体報告：坂井　充（公益財団法人伊賀市文化都市協会）……24
コーディネーターレポート：伊藤　由貴子……28
進行シート：大久保　真利子……32

＜茨城県つくば市＞
実施団体報告：香川　志帆（公益財団法人つくば文化振興財団）……34
コーディネーターレポート：米澤　浩……39
進行シート：大久保　真利子……42

＜岩手県釜石市＞
実施団体報告：中村　仁彦（釜石まちづくり株式会社）……44
コーディネーターレポート：谷垣内　和子……49
進行シート：丹羽　梓……52

Ⅰ．令和３年度公共ホール邦楽活性化事業の概要

令和３年度公共ホール邦楽活性化事業　実施概要

１　趣　旨

公共ホールの活性化と地域における芸術活動を担う人材の育成及び環境づくりに寄与し、あわせて創造性豊かな地域づくりに資することを目的とし、市町村等との共催により、公共ホール等を拠点とした、邦楽演奏家による地域交流プログラムに関する事業を実施する。

２　対象団体

市町村（政令指定都市含む。）及び市町村の設置する公の施設の管理を行う指定管理者等。

３　事業内容

⑴　研修事業

①　全体研修会

実施団体の担当者を対象に、邦楽事業の実施に必要な実践的ノウハウを取得するための研修会を実施した。

②　個別研修

担当コーディネーターが現地での事前打合せや会場下見を実施、事業の円滑な実施のための助言を行った。

⑵　公演事業

①　地域交流プログラム（アクティビティ）

学校等でのアウトリーチ（ミニコンサート）など、地域との交流を図る事業を原則として４回（１日につき２回）実施。

②ホールプログラム

公共ホール等において邦楽コンサートまたはワークショップを実施（原則として１回）。
なお、コンサートは有料公演とし、入場料収入は実施団体に帰属する。

４　経費負担

⑴　一般財団法人地域創造が負担する経費

①　演奏家派遣に係る経費

出演料、現地移動費を除く交通費･宿泊費等、派遣に係る保険料、楽器運搬費（現地運搬費を除く）。

②　コーディネーター派遣に係る経費

謝金、現地移動費を除く交通費・宿泊費等、派遣に係る保険料。

③　地域交流プログラム負担金

実施市町村が支出した地域交流プログラムに係る経費のうち、楽器運搬費およびこれに準ずるものとして特に地域創造が認めたもの。（限度額10万円）

⑵　実施団体が負担する経費

一般財団法人地域創造が負担する経費以外の経費（現地移動費、舞台制作費、広報宣伝費、全体研修会への参加旅費など）。

令和３年度公共ホール邦楽活性化事業の流れ

全体研修会（令和３年５月17日・18日）

・事業説明、アウトリーチや邦楽についての基礎講座
・過去の事業実施事例紹介
・演奏家によるプレゼンテーション
・実施団体担当者によるプレゼンテーション
・演奏家、コーディネーター等との顔合わせ・グループミーティング

↓

事前準備

・地域交流プログラムの実施先調整
・ホールプログラム概要の検討、広報準備

↓

個別研修（現地下見）（事業実施２～３カ月前）

・ホール、地域交流プログラム実施先の下見
・ホールプログラム、事業全般についての打合せ

実地研修（演奏家のためのプログラムづくり研修）（事業実施２～３カ月前）

・地域交流プログラムランスルー（通し稽古）とブラッシュアップ
・その他、ホールプログラムに関するミーティング等

↓

事業実施（令和３年９月～令和４年３月）

■地域交流プログラム（アクティビティ）

・学校、福祉施設、文化・観光施設等でのミニコンサートやワークショップ

■ホールプログラム

・ホールでのコンサート又は公募型ワークショップ

令和３年度公共ホール邦楽活性化事業　実施体制･実施日程

◎**主催団体**：釜石まちづくり株式会社（岩手県釜石市）
公益財団法人つくば文化振興財団（茨城県つくば市）
公益財団法人伊賀市文化都市協会（三重県伊賀市）
和歌山県上富田町　※新型コロナウイルス感染症の影響により中止（令和４年度に延期）
一般社団法人豊前市芸術文化振興協会（福岡県豊前市）

◎**共催団体**：一般財団法人地域創造

◎**チーフコーディネーター**
児玉　真（一般財団法人地域創造プロデューサー）

◎**コーディネーター**
伊藤　由貴子（公益財団法人神奈川芸術文化財団　音楽事業部長、神奈川県立音楽堂　館長）…伊賀市
谷垣内　和子（公益社団法人日本芸能実演家団体協議会　実演芸術振興部　企画室長）…釜石市、上富田町
米澤　浩（邦楽演奏家、NPO法人日本音楽集団副代表）…つくば市、豊前市

◎**サブコーディネーター**
大久保　真利子（九州大学総合研究博物館専門研究員）…つくば市、伊賀市
田中　元樹（指揮者）…上富田町
丹羽　梓（横浜国立大学大学院博士後期課程）…釜石市、豊前市

◎**演奏家**　**※担当地域で演奏した楽器を掲載しています。**
岡村　慎太郎（三味線・十七絃）、山形　光（箏）、黒田　鈴尊（尺八）…釜石市
本田　浩平（津軽三味線）、橋本　大輝（津軽三味線・唄・太鼓）、
安藤　龍正（津軽三味線・舞踊）…つくば市
麻植　理恵子（箏・十七絃）、川崎　貴久（尺八）、小林　鈴純（尺八）…伊賀市
本間　貴士（箏）、多田　彩子（箏・薩摩琵琶）、澄川　武史（横笛）…上富田町
藤高　理恵子（筑前琵琶）、日原　暢子（箏）、簑田　弘大（三味線）…豊前市

■事業実施日程　※日程順

	都道府県	市町村	実施団体	開催会場	開催時期
1	福岡県	豊前市（ぶぜんし）	一般社団法人豊前市芸術文化振興協会	豊前市市民会館	令和３年９月30日（木）～10月２日（土）
2	三重県	伊賀市（いがし）	公益財団法人伊賀市文化都市協会	あやま文化センター	令和３年11月25日（木）～27日（土）
3	茨城県	つくば市	公益財団法人つくば文化振興財団	つくばカピオホール	公演：令和４年２月19日（土） アクティビティ：２月28日（月）～３月１日（火）
4	岩手県	釜石市（かまいしし）	釜石まちづくり株式会社	釜石市民ホールTETTO	令和４年２月24日（木）～26日（土）

令和３年度公共ホール邦楽活性化事業　演奏家プロフィール

※担当地域で演奏した楽器を掲載しています　　◎：代表者

［岩手県釜石市担当］

◎岡村（おかむら）　慎太郎（しんたろう）　三味線･十七絃

佐野奈三江・上木康江の両師から箏・三絃を学び、胡弓を中井猛師に師事。95年東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。在学中に宮中桃華楽堂にて御前演奏。97年東京藝術大学大学院音楽研究科修了。翌年、東京藝術大学推薦による奏楽堂デビューコンサート「岡村慎太郎リサイタル」開催。地歌箏曲の古典に心を寄せ、三味線組歌・箏組歌を菊藤松雨師に師事（06年両巻伝授）。99年NHK邦楽オーディション合格、第34回宮城会箏曲コンクール１位、第６回賢順記念箏曲コンクール奨励賞。02年第７回「静岡の名手たち」オーディション合格。16年第22回くまもと全国邦楽コンクール最優秀賞、文部科学大臣賞受賞。この間、04年文化庁新進芸術家国内研修生、06年京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター共同研究員（～07年）。09年エリザベト音楽大学講師として研究・指導に関わる。10年（財）日本伝統文化振興財団邦楽技能者オーディション合格に伴いCDを発売。その他、Ｅテレ「にっぽんの芸能」、NHK-FM「邦楽のひととき」など、録音や放送での演奏機会も多い。国立劇場主催公演では「三曲の会」「名曲で知る邦楽の世界」「日本音楽の流れ」等に出演。現在、宮城会、紫桐会、はくが会、森の会、（公社）日本三曲協会、生田流協会の各会員。箏組歌同人。NHK文化センター柏教室講師。

○山形（やまがた）　光（ひかり）　箏

幼少期より宮城社大師範・田中佐久子氏、後に宮城社大師範・矢﨑明子氏に箏・三絃を師事。東京藝術大学音楽学部邦楽科生田流箏曲専攻卒業。各地の小学校・中学校などで特別授業の講師を務め、学校公演を行う。また公共施設や福祉施設など様々な場所でのワークショップ開催やイベントへの出演、演劇・ミュージカル音楽への参加など、古典に捉われず現代曲や洋楽器とのコラボレーションも積極的に行い、幅広く活動している。宮城社師範。日本三曲協会・森の会・若水会、各会員。和楽器オーケストラあいおい・和楽器アンサンブル真秀、各メンバー。

○黒田（くろだ）　鈴尊（れいそん）　尺八

人間国宝・二代青木鈴慕、三代青木鈴慕に師事。早稲田大学人間科学部、東京藝術大学卒業、同大学院修士課程修了。第二回利根英法記念邦楽コンクール最優秀賞受賞。国際尺八コンクール2018inロンドン優勝。山本和智作曲“Roaming liquid for shakuhachi and orchestra”を世界初演。ベルギー・ARS MUSICAにて武満徹作曲“November Steps”他、Claude Ledouxの新作尺八コンチェルト他を世界初演。2019年には日本でRafael Nasif作曲の尺八とオーケストラ作品を世界初演。アンサンブル室町（佐治敬三賞受賞）、邦楽四重奏団（1stCD「野田暉行邦楽作品集」は“レコード芸術”誌にて特選盤、“音楽現代”誌にて推薦盤を獲得）、１÷０メンバー。毎年の独演会や数多くの委嘱、オーケストラとの協奏曲等やジャンルを横断する活動を通じて、尺八の今とこれからの無限の可能性を追求。CDや劇伴、TV放送などにも音源提供多数。令和元年度文化庁文化交流使として世界各国にて演奏活動を行う。

［茨城県つくば市担当］

◎本田（ほんだ）　浩平（こうへい）　津軽三味線

熊本県熊本市出身。15歳の時に福居流津軽三味線の福居慶大氏に師事。高校卒業後上京し、2007年より浅草の「民謡の店追分」（現和ノ家追分）に約13年間レギュラー演奏者として在籍し、数多くの舞台経験を積む。2020年より鹿児島県に拠点を移す。古典的な津軽三味線の独奏、民謡の伴奏だけではなく、和太鼓、尺八、奄美島唄、フラメンコ等ジャンルを問わずコラボレーションを行う他、ゲーム音楽への参加など幅広い分野に活動の場を広げている。第21回津軽三味線コンクール全国大会優勝。

○橋本（はしもと）　大輝（ひろき）　津軽三味線、唄、太鼓

1985年４月８日生まれ。山口県下関市出身。13歳より父である橋本泰宏に師事、津軽三味線、太鼓をはじめる。平成25年、日本郷土民謡協会全国大会にて三味線太棹の部優勝、民謡ハイライトの部総合優勝の二冠を達成する。民謡の唄においてもNHKのテレビ、ラジオ番組に多数出演。よさこいソーラン楽曲のレコーディング歌唱などでも活動。津軽三味線だけでなく民謡、太鼓、銭太鼓などをこなすマルチプレイヤーとして活動を展開している。現在、茨城県在住。

○安藤（あんどう）　龍正（たつまさ）　津軽三味線、舞踊

平成５年３月１日生まれ。高校生の時に大阪の民謡の名門梅若朝啄氏の門を叩き、安来節をはじめ日本全国の民謡、三味線の修業始める。高校を卒業すると上京し民謡の名門高橋流三乃会に入門し、民謡から津軽三味線の精進と芸の幅を広げる。その後、民謡舞踊を角田流三代目家元二代目角田洋若氏に師事し、舞踊の精進にも励む。現在は「和ノ家追分」にて鍛えた芸を連日披露し東京でも名を馳せ、民謡界という世界だけでなく日本のエンターテイメントシーンで活躍するであろう貴重な逸材。

［三重県伊賀市担当］

◎麻植（おえ）　理恵子（りえこ）　箏･十七絃

幼少より箏を母・麻植美弥子、現在深海さとみ氏に師事。NHK邦楽オーディション合格。京都市姉妹都市交流促進特別表彰。第32回京都芸術祭音楽部門奨励賞等受賞多数。現代音楽の初演も多く、国内外での演奏や学校公演の傍ら、語りの活動も行っている。

○川崎（かわさき）　貴久（たかひさ）　尺八

幼少から父より琴古流尺八を学び、現在は三橋貴風師に師事する。琴古流尺八貴風会師範。令和元年度大阪文化祭賞奨励賞、令和２年度文化庁芸術祭新人賞、他受賞歴多数。古典本曲から現代音楽まで幅広く取り組み、様々なジャンルとの共演も積極的に行っている。

○小林（こばやし）　鈴純（れいじゅん）　尺八

幼少より父に尺八の手ほどきを受け、その後二代青木鈴慕（人間国宝）に師事。自主公演をはじめ様々な演奏会への助演や、海外公演など幅広く活動している。また楽器製作も行い、様々な角度から尺八道を追求している。琴古流鈴慕会大師範。

［和歌山県上富田町担当］

◎本間（ほんま）　貴士（たかし）　箏

群馬県太田市出身。３歳より箏、12歳より三味線の手解きを母に受ける。桐朋学園芸術短期大学専攻科、研究生修了。演奏解釈、作曲法等を水野利彦、秋岸寛久、二代野坂操壽、杵屋勝芳壽の各氏に師事。第25回国民文化祭「邦楽の祭典」群馬県代表の為に「太平記・新田義貞」を作曲、出演。第７回ルーマニア国際音楽コンクール室内楽部門第一位。NHK WORLD「Blends」へ出演、箏曲部マンガ「この音とまれ」PV、CD収録へ参加等。Sound Horizon15周年記念作品「絵馬に願ひを！」並びに15周年記念コンサートツアーに参加。坂東玉三郎、川井郁子、武田双雲、スティーヴ・エトウ氏等と共演。2018年、和楽器演奏家集団「桜men」としてa-nation@味の素スタジアムに出演。2020年５月、正式にavex traxよりメジャーデビュー。現在、生田流箏曲芙美音会主宰補佐。（公社）群馬三曲協会理事、水野箏曲学院本部所属。奈良県吉野町観光大使も務める。

○多田（ただ）　彩子（あやこ）　箏、薩摩琵琶

広島県広島市出身。桐朋学園芸術短期大学特別研究生修了。箏、二十五絃箏を二代野坂操壽並びに滝田美智子に、薩摩琵琶を坂田美子の各氏に師事。第17回賢順記念くるめ全国箏曲祭にて岸邊成雄賞受賞。安芸宮島弥山大本山大聖院観音堂、古都奈良総本山長谷寺にて奉納演奏。生田流箏曲松の実會師範。東京都立上水高等学校箏曲特別非常勤講師。2017年 NHK WORLD「Blends」出演。CD「和楽器Disney 2」他、様々なメディア、CD等の音楽収録に参加。現在、東京を拠点に関東、広島、奈良を中心に活動。

○澄川（すみがわ）　武史（たけし）　横笛

島根県益田市出身。島根県西部の郷土芸能「石見神楽」をルーツに持つ横笛奏者。桐朋学園芸術短期大学日本音楽専修卒業。東京藝術大学別科邦楽囃子（笛）修了。笛を中川善雄、西川浩平の両師に師事。邦楽演奏会、舞踊会のほか、春風亭昇吉落語会での笛演奏。また、2015年京都上賀茂神社にて上演された宮本亞門演出奉納劇「降臨」に出演。メディア関連では、NHK大河ドラマ「青天を衝け」、「軍師官兵衛」に出演。映画「若おかみは小学生！」劇中音楽の演奏。石川さゆり「粋～Iki～」、林原めぐみ「Fifty～Fifty」のアルバム録音参加など、活動は多岐にわたる。アンサンブル室町メンバー。

［福岡県豊前市担当］

◎藤高（ふじたか）　理恵子（りえこ）　筑前琵琶

古典弾き語りや現代邦楽の演奏活動を行うと共に、オリジナル作品の創作にも力を注ぐ琵琶奏者。小さな会場でのソロライブ、学校公演、他楽器とのアンサンブル演奏など幅広く活動。第５回東京邦楽コンクールにて日本現代音楽協会賞受賞。第15回くまもと全国邦楽コンクールにて優秀賞受賞。NHK邦楽オーディション合格。国立劇場主催の現代邦楽公演に出演。日本音楽集団の団員として国内各地および海外での公演に参加。

○日原（ひはら）　暢子（ようこ）　箏

九州系地歌演奏家 岩田柔柯師に師事。東京藝術大学邦楽科卒業に際し、アカンサス音楽賞及び同声会賞受賞。同大学大学院修士課程修了。同大学教育研究助手を経て、文化庁新進芸術家育成事業研修生として野坂操壽師、深海さとみ師のもとで研鑽を積む。宮内庁皇居桃華楽堂にて御前演奏。第18回賢順記念全国箏曲祭にて銀賞及び福岡県知事賞。利根英法記念邦楽コンクール第５回古典「箏曲地唄」にて最高位。芙蓉会、森の会、日本三曲協会会員。岐阜大学教育学部非常勤講師。桜美林大学芸術文化学群非常勤講師。

○簑田（みのだ）　弘大（こうだい）　三味線

東京生まれ。幼少より尚美学園子供音楽科にてピアノ、ソルフェージュを習う。2006年国立東京藝術大学（長唄三味線専攻）卒業。TVドラマ「タイガー＆ドラゴン」、周防正行監督作品「舞妓はレディ」（2014年）等の音楽制作に参加。日本音楽集団、和楽団 煌、長唄東音会所属。昭和音楽大学、国立音楽院、新潟市ジュニア邦楽合奏団講師。東京を中心に新潟、仙台にて指導している。海外公演も多く、古典から現代、作曲活動また音楽教育まで、国内外で幅広く活動している。

令和３年度公共ホール邦楽活性化事業　全体研修会実施概要

１　概　要　　令和３年度の実施団体担当者を対象とした全体研修会を、オンラインにて実施。１日目は、事業の基本的な考え方や邦楽の基礎、過去の事例紹介などのゼミを行った。２日目は、派遣演奏家と実施団体担当者がそれぞれにプレゼンテーションを行い、演奏家のこれまでのアウトリーチや、レパートリー、また、ホールの基本情報や事業実績などについて、理解を深めあい、チームごとにキックオフミーティングを行った。

２　参加者　　令和３年度実施団体担当者

３　日　程　　令和３年５月17日（月）、18日（火）

４　会　場　　一般財団法人地域創造　会議室（新型コロナウイルス感染症対策のため、実施団体担当者、演奏家、コーディネーターはオンラインで参加）

５　全体研修会スケジュール

月日	会場	時間		内　容
５月17日	地域創造会議室・オンライン	14:00		開講
		14:00～14:30	30分	地域創造挨拶・事業概要説明
		14:30～15:15	45分	アウトリーチ概論／児玉チーフコーディネーター
		15:15～15:25	10分	休憩
		15:25～16:10	45分	公共ホールにとっての邦楽事業とは／伊藤コーディネーター
		16:10～16:20	10分	休憩
		16:20～17:05	45分	邦楽のいろは／谷垣内コーディネーター
		17:05～17:15	10分	休憩
		17:15～18:15	60分	市町村事例と邦楽公演の制作について／秩父市ご担当者（R2年度公共ホール邦楽活性化モデル事業実施団体担当者）、米澤コーディネーター、大久保サブコーディネーター
５月18日	地域創造会議室・オンライン	10:00～10:20	20分	演奏家によるプレゼンテーション①（豊前市、伊賀市　各10分）
		10:20～10:50	30分	実施団体担当者からのプレゼンテーション①（豊前市、伊賀市　各15分）
		10:50～11:00	10分	休憩・転換
		11:00～13:00	120分	グループミーティング①（豊前市、伊賀市）
		13:00～13:40	40分	休憩・転換
		13:40～14:00	20分	演奏家によるプレゼンテーション②（上富田町、つくば市　各10分）
		14:00～14:30	30分	実施団体担当者からのプレゼンテーション②（上富田町、つくば市　各15分）
		14:30～14:40	10分	休憩・転換
		14:40～16:40	120分	グループミーティング②（上富田町、つくば市）
		16:40		閉講

チーフコーディネーター報告
児玉　真

邦楽活性化事業　2021年度を振り返って

2021年度も新型コロナの状況は落ち着かず、その影響は今年も決して小さくなかったが、予定していた５市町村のうち４か所は何とか実施することができた。まずは、担当した各会館の勇気と知恵に感謝をしたい。

コロナ下では、アーチストや市町村の担当者がその意欲やアイデアを発揮するような、アウトリーチに最適な環境がなかなかつくれないというのが最大の悩みである。地域の教育機関や施設などの心配は尤もで、特に邦楽は声（歌や掛け声）が大事な要素を占める音楽であることを考えると、十分な環境が作れなかったことがやや残念ではあった。とはいえ、アウトリーチ活動は、そもそも演奏をする最良の条件や環境を追いかけるというホールでの公演と違い、様々なハンデをどう乗り越えて伝えるべきことを伝えられるかが試される場所であって、新型コロナ下での実践はその意味では可能性を探す良い機会ととらえたほうが良いのかもしれない。

講座などで話していることだが、アウトリーチ活動を考える場合大事なことは３つある。

１，何故やるのかを考えること

２，何をやるのかを考えること

３，どうやるのかを考えること

何故やるのかは、その町の状況、その場所の状況、そこに生きている人たちの状況、そして出向くアーチストの状況など様々な要素で変化してくるが、その中からこの場所でやる理由を考えていかないといけないということである。

それが定まれば何をやるか（具体的な伝えたいこと、曲目、曲順、話すことなど）は必然的に決まってくる（筈）。そこはアーチストが一人で苦しむ局面であってコーディネーターでも具体的に口をはさむのはなかなか難しい。でも、それで目標が定まれば、そこからはぶれずにプログラムを作ることができる。

しかし、アウトリーチでは邦楽を受け止める経験がない人がほとんどであることから、伝えたいことが伝わらない、ということは想定しないといけない。特に「体験」ということを重視すると、あたまで理解するよりも、身体や感情で理解をする（要するに「すとんと落ちる」ということかな）ように仕向ける工夫が必要になる。そのためのアプローチは？、ということが大事になる。それは多くの人の知恵を活用して行ったほうが効果的な手段は見つかるのではないか。アーチストもコーディネートする人（会館の担当者などを含めて）と一緒に考えるのに向いたことだと思う。

コロナ下では、なんで音楽があるのだろう、音楽家は本当に必要？今までやっていたことでよかったのか？等々、考えてしまう場面が多くあったと思うのだけれど、それ故にアウトリーチで大切なこともたくさん考えるという機会になっていたのではないか、私も含めて。
それが次のステップにつながるといいのだけれど…

今年度は、夏に邦楽事業で始めて登録演奏家のオーディションを行った。来年度からそのオーディションで選ばれた登録演奏家が各地で活動することになるが、新しい考え方や手法が生み出されていくことを期待したい思う。

Ⅱ．令和３年度公共ホール邦楽活性化事業報告

実施団体：一般社団法人 豊前市芸術文化振興協会
実施時期：令和３年９月30日（木）～令和３年10月２日（土）
出演アーティスト：藤高理恵子（筑前琵琶）　簑田弘大（三味線）　日原暢子（箏）

アクティビティ

タイトル：邦楽のしらべ　和楽器っていいっちゃねーコンサート
期　　日：令和３年９月30日　10：45～11：35
会　　場：角田中学校　体育館
参 加 者：３年生　27名

市内中学校４校を対象にしたアウトリーチは教育委員会と連携して和楽器の鑑賞を実施。

それぞれの楽器の説明、ソロ曲、アンサンブルを楽しんでもらう。ソロタイムには曲に歌をのせて披露。演奏者が楽器を始める経緯など話してもらい、心に残るコンサートになった。

タイトル：邦楽のしらべ　和楽器っていいっちゃねーコンサート
期　　日：令和３年９月30日　14：30～15：20
会　　場：合岩中学校　体育館
参 加 者：３年生　42名

市内中学校４校を対象にしたアウトリーチは教育委員会と連携して和楽器の鑑賞を実施。

それぞれの楽器の説明、ソロの曲、アンサンブルを楽しんでもらう。ソロタイムには曲に歌をのせて披露。演奏者が楽器を始める経緯など話してもらい、心に残るコンサートになった。

タイトル：邦楽のしらべ　和楽器っていいっちゃねーコンサート
期　　日：令和３年10月１日　10：55～11：45
会　　場：千束中学校　体育館
参 加 者：３年生　63名

市内中学校４校を対象にしたアウトリーチは教育委員会と連携して和楽器の鑑賞を実施。

それぞれの楽器の説明、ソロの曲、アンサンブルを楽しんでもらう。ソロタイムには曲に歌をのせて披露。演奏者が楽器を始める経緯など話してもらい、心に残るコンサートになった。

開催１週間前、９月に予定していた体育祭が中止になり３年生だけの鑑賞予定を学校からの要望で１、２年生にも中継放送したいと申し出があり、急遽対応。学校通信にその模様が詳しく掲載され、学校あげての取り組みとなった。

タイトル：邦楽のしらべ　和楽器っていいっちゃねーコンサート
期　　日：令和３年10月１日　14：40～15：30
会　　場：八屋中学校　体育館
参 加 者：３年生　77名

市内中学校４校を対象にしたアウトリーチは教育委員会と連携して和楽器の鑑賞を実施。

それぞれの楽器の説明、ソロの曲やアンサンブルを楽しんでもらう。ソロタイムには曲に歌をのせて披露。演奏者が楽器を始める経緯など話してもらい、心に残るコンサートになった。

コンサート又は公募型ワークショップ等

タイトル：邦楽のしらべ　和楽器っていいっちゃねーコンサート
期　　日：令和３年10月２日　14：00～15：10
会　　場：豊前市市民会館
参 加 者：150名（スタッフ込み）

筑前琵琶・三味線・箏の楽器の説明、ソロ、アンサンブルを楽しんでもらう。

プログラムはアンサンブルで始まり、MCを交え親しみを感じながら日本古くからの楽器に関心を抱いていただきながら、初めて聴く３つの和楽器のコラボレーションの美しさ素晴らしさを味わってもらった。

ホールロビーにてアウトリーチ４校の写真などを展示し、世代を超えて地域ぐるみで芸術文化を継承していこうという私たちの日頃からの想いを示すことができた。

ホール担当者の意見・評価
豊前市市民会館　松田　弥生

① 応募の動機・事業のねらい

豊前市芸術文化振興協会では、10年ぐらい学校でのアウトリーチ企画がなかったので、義務教育最後の３年生に心に残る演奏を届けたい。また中学生は、洋楽は聞いたり、習ったりする学生さんもいるのだが、和楽器を習っている学生は少ないだろうと、この機会に日本古くからの楽器に興味をもってもらいたいと応募した。

当団体では筑前琵琶・三味線・箏など組み合わせのコンサートは経験がなく、この事業でより多くの人に和楽器の素晴らしさを知ってもらいたいと思った。コロナ禍ではあるが、こんな時こそ、芸術の灯を絶やしてはいけないと思う。

② 企画のポイント

筑前琵琶・三味線・箏　３つの楽器のそれぞれのソロの音を楽しんでもらい、３つの楽器の音が重なり合うアンサンブルも楽しんでもらう。

楽器の説明などを入れ、興味が沸くような進行にした。中でもソロ曲で３人がそれぞれ歌いながらの演奏は迫力もあり優雅さも感じた。

ホールコンサートでの集客が心配だったので、友の会員様をご招待とし、友の会員の増員を目指し、また、同時期に落語会のチケット販売があるので、２枚合わせての販売戦略を考えた。

コロナ禍である為、休憩なしの70分公演とした。

アンコールに皆さんの馴染みの曲「黒田節」をリクエストし、声には出さず心の中で歌ってもらい終演とした。

お客様も黙って聴くだけでは、発散するものがなく、どこかで口ずさんだり息を吐くと燃焼できると思っている。

③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

和楽器に馴染みがないため演目などが漠然として思いつかなかった。

目的や伝えたいことを明確にしていないと、コンサートタイトルを考えるのも大変で、無難なものでなく、地域性もあり、インパクトもあり、親しみやすいものを考えるのは容易ではなかった。

また、コーディネーター、サブコーディネーター、地域創造の方からのメールに担当者一人で対応に追われ先行きが不安になることもあった。演奏者への確認に時間がかかることもあり、担当者にある程度経験や余裕がなければ、こなせないと感じた。

コロナ感染者が増え､現地下見の日数が減ったことで練習の様子や実際どんな曲をするのかわからず、チケット販売でアピールするのが難しかった。

演奏していただく楽器について、応募の時点で知識と学習は必要だと思う。

自分自身が感動することなくしてチケット販売は難しいので、事前にプログラム演奏を聴きコンサートをイメージすることができれば、共感や素晴らしさを伝えられる。

学校の公演が緊急事態宣言中にあてはまり、開催か中止か微妙な段階で両方のことを考えての準備は大変だった。

④　上記③をどのようにクリアしたか

３つの楽器について、３人のアーティストの方のユーチューブなどを検索しイメージした。

東京での練習動画を送ってもらい、アンサンブルの音を聞いてどんな感じになるのかわかり、安心した。

イメージしていたものと違い３つの音は美しかった。

この動画をSNS等で発信して、チケットの購入を勧めた。

コンサートを企画するにあたって、チェックシートや細かいことや疑問など、共有メールで質問し解決していった。

アウトリーチでは、本番前に再度学校訪問しアンケート用紙や歌詞カード、タイムテーブルなどを準備し進行についての打ち合わせをした。

⑤　事業を実施しての成果

各学校での生徒のお礼の言葉は作られたように上手だった生徒もいたが、ある男子生徒が「自分は和楽器に全く興味がなかったが聞いていくうちにだんだん引き込まれていった！」という言葉があった。

興味がなかったけど、聞いていくうちにだんだん楽しくなったり、関心をもってもらることが、一番の成果だと思う。

また、演奏者の楽器を始めたきっかけの話は生徒にはとても参考になった。例えばアメリカで生活するようになって、日本のことをほとんど知らないでいる自分に気づいたという話、また言語は通じなくても音楽を通して人と人との絆がつくられていくという話など、生徒が自らの今後の生き方を考える上で大変示唆に富んだ話だったように思う。

⑥　事業を実施しての反省点・課題

手をかけたコンサートは良いものが出来ると確信しているものの、他の事業と掛け持ちをすると、疎かになってしまうこともあった。

アウトリーチ１校目で予定時間をオーバーすることを想定していなくて、最後の曲を短縮するのか？カットするのか？慌てて学校側に相談した。

挨拶やMCが入ると想定外のことが起こる。起こった時の対処をどうするか？聴く側にとっては本番は１回きり、毎回が真剣勝負だと感じた。

また、マイクトラブルの対処についても考えておくべきだと感じた。

ホールコンサートでは会館の職員が少ない為、充分なステージマネージャーの配置が出来ず、地域創造さんのお世話になった

時間がかかったチラシ作りだが、コーディネーターと演奏者と主催者の意とするものをチラシ作成デザイナーに伝えるのも大変だった。チラシ作成時には掲載するメインの曲だけは決めているとスムーズに完成すると思う。

スタッフの打ち合わせ会議が緊急事態宣言中で、行えず充分な仕込みが出来ず、何とか開催できた。

しかし、みんなで手をかけたコンサートは温かみもある。

お客様、出演者、スタッフ、この３者が満足できるものをこれからも作っていきたい。

⑦　今回の事業を通じて、自身の「地域」または「ホール」について改めて考えたこと

アウトリーチでは、中学生のアンケートでは、「臨場感があった」「鳥肌がたった」などこれが中学生の感想なのか！と目を見張るのものもあり、喜んでくれた様子が手に取るようにわかった。これからは自社ホールだけでなく、外に出る企画も必要で、次の世代を担う子供たちに芸術鑑賞の機会を作り、数々の経験をして、これからを引き継いでもらいたいと思った。アウトリーチ４校のうち２校は緊急事態宣言中ではあったが協力的で再演の要望もあった。

ホールでのコンサートでは、協会員のボランティアスタッフが手慣れた様子で本番当日はお客様を温かく迎え、終演後会議室で、関係者の反省会件懇親会でコンサートの感想を直接伝えることもでき次の企画への意欲にもなった。

毎度のことながら、途中くじけそうになるが、この感動と達成感が次なる企画に結びつくことになる。

【参考資料】チラシ

邦楽のしらべ
concert
令和3年度 公共ホール邦楽活性化事業
和楽器っていいっちゃね～
筑前琵琶
三味線
箏
三つの楽器が奏でる
アンサンブル
若手ホープの三人がそろい
楽の音を響かせます！
勧進帳
ミニ解説付き
箏の色々
三種の箏の聴き比べ
那須与一
若き武将の武勇伝！
藤高 理恵子
簑田 弘大
日原 暢子
2021
10/2 土
13:30 開場 14:00 開演
豊前市市民会館
大ホール
福岡県豊前市八屋 2009-3
●チケット
500円（全席自由）限定200席
※状況によって、チケット販売枚数が変更になる場合がございます。
●チケット販売日時・場所
9月10日（金）10:00～
豊前市市民会館（木曜休館）・多目的文化交流センター（月曜休館）
■主催：一般社団法人 豊前市芸術文化振興協会 ■共催：一般財団法人 地域創成 ■後援：豊前市、豊前市教育委員会
問い合わせ先
一般社団法人 豊前市芸術文化振興協会（豊前市市民会館内）（9:00～17:00/木曜日休館）
☎ 0979-82-2705

邦楽のしらべ
concert
筑前琵琶・三味線・箏の
三つの楽器が奏でる
古典やアンサンブル曲を
お楽しみください。
和楽器っていいっちゃね～
筑前琵琶
藤高 理恵子
Rieko Fujitaka
那須与一
若き武将の武勇伝！
日原 暢子
Yoko Hihara
箏・十七絃・二十五絃箏
箏の色々
三種の箏の聴き比べ
簑田 弘大
Kohdai Minoda
勧進帳
ミニ解説付き
細棹三味線

コーディネーターレポート
米澤　浩

本物って、いいっちゃろ～

今回「豊前市」を担当したのは、筑前琵琶の藤高理恵子さんがリーダーとなり、細棹三味線の簑田弘大さん、箏の日原暢子さん（以下、敬称略）の３名で編成したチームだったが、それぞれが異なるジャンルの絃楽器奏者というこれまでに例を見ない編成のチームだった。

このチームは、今回の事業に《満を持して臨んだ》ように思う。

というのも、昨年度も同じ編成のチームで準備を整えていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で彼らが担当していた市町村ホールが事業の実施を見送り、準備したプログラムやリーダー藤高が「チームと事業のために委嘱した新作」が日の目を見なかったからだ。

その後、メンバーのお目出度などがありメンバー交代もあったが、２年を掛けて練り上げた彼らのプログラムが、ついに今年度豊前市で日の目を見ることとなった。

本事業に向けて「豊前市市民会館」から「本物を聴かせて欲しい。」というリクエストが寄せられた。これはアーティストにとって望むところだと思うが、気になるのはMCを含めた全体の構成である。

得てして「何をやるか？」という内容・作品を軸にすることが先行しがちだが、これは誰がやっても似たような金太郎飴状態になりかねないし、プログラムに説得力を盛り込めるかが未知数になる可能性がある。しかし、「誰がやるか？」という演奏者を軸にしたところからスタートして内容を練れば、アウトリーチプログラム（以下、OR）もホールプログラム（以下、HP）も、その独自な内容に比肩するものは無くなる。

又、ORでの自分の立ち位置・スタンスを固め切れていないアーティストもいるため、多面的にプログラム全体を再度ブラッシュアップする実地研修から実動を開始した。

先ずORプログラムだが、藤高豊前チームは『日本の絃楽器と〈うた〉』をテーマにプログラムを構成し、藤高・簑田は「彼らならではのカード」を持ってきた。そして、ここで「なるほど、、、」と思ったのは、日原が『箏曲 千鳥の曲』を選んだことだった。（プログラム内容の詳細はサブコーディネーターの丹羽さんがまとめた「進行シート」をご参照頂きたい。）

邦楽にあまり馴染みの無い方々は、箏というと「金屏風の前に〈箏・三味線・尺八〉が並ぶ三曲合奏」の絵を思い浮かべる方々も少なく無いと思うが、『箏曲 千鳥の曲』は本来〈箏と胡弓〉のために作曲された作品で（今では胡弓が入ることは少ない）、あえて三味線が介在しない作品を日原は箏奏者として提示してきた。『絃楽器と〈うた〉』をテーマに選曲する時、独自性から考えると箏の選曲は悩ましいと思うが、この選曲は「本物を聴かせて欲しい。」というリクエストにも十分応える選曲だった。

さて、ここでORプログラムの印象的だったエピソードを二つ。

先ずは、何といっても「豊前市市民会館」のご努力と「豊前市教育委員会」のご判断である。

ORの初日は９月30日（木）で緊急事態宣言期間の最終日に当たっていたが、政府が宣言解除を決断するよりもはるか前に、豊前市では本事業のOR実施を決断なさった。

地域創造では、本事業を「ORとHPをセットで１事業」としており、HPだけでは本事業の実施がNGのため、市内の全中学（４校）での《OR実施の可否が事業のカギ》となっていた。

本事業に対しての高いモチベーションに裏付けされた「豊前市市民会館」のご尽力と、「豊前市教育委員会」のご理解・ご助力に、心から敬意とお礼を述べたい。

二つ目は初日の会場リハでのこと。

藤高豊前チームが現地入りした初日、舞台技術さんの都合でこの日にHPの位置決めやPAバランスを完了しなければならなかったため、翌日からのORのリハはHPの準備諸々を済ませた後にランスルーを行うこととした。

これらを一人客席で聴いていらした方がいた。HP終了後の反省会で分かったことだが「豊前市市民会館」を支えるボランティアのお一人で、反省会でのその方のお話が印象的だった。

その方は音楽の先生をなさっていたそうで、「ORのリハを見せてもらったが、それぞれの演奏家が音楽や楽器との出会いを聞かせてくれたことが素晴らしく、自分自身もこういう授業がしたかった。」という発言をなさっていた。

人（演奏者）を軸にし、その経験・個人史を織り込んだORプログラムは、比肩するものが無いだけでなく、演奏者が伝える言葉・思いに大きな説得力をもたらすことを再確認した。

次いでHPだが、本番を迎えるまでに多くの方々のご尽力があった。

「豊前市市民会館」では事前に東京でのリハの映像をツイッターに上げ、ORの現場でも撮影してアップし、集客に尽力して下さった。そして舞台技術のご担当者は、歴史ある会館ゆえに照明設備などに制約がある中、フルにこちらの要望を叶えるべく尽力して下さった。

アーティストもこれに応えるプログラム構成でHPに臨み、藤高理恵子委嘱初演の『三雅』（川崎絵都夫作曲：三重奏）で幕を開けた本番は、この初演に続き３人が『彼らの切り札とも思えるソロ曲』を並べ、最後に三重奏でフィナーレを迎える構成だった。日原はHPのために「箏（十三絃）・十七絃・二十五絃箏」の３種類の箏を持ち込み（ORでは箏だけを使用）、乗り盤の３曲に１面ずつ計３種の箏を使うという贅沢なプログラムのラインナップだった。

HPでも印象的だったエピソードを二つ。

一つ目は邦楽器奏者としてのマニアックな視点からで恐縮だが、彼らがトリに持ってきた『国東の賦』は琵琶奏者の山田美喜子氏が委嘱して長澤勝俊氏が作曲した作品で、藤高は山田美喜子氏の孫弟子にあたり、その音楽的血脈を受け継ぐ一人である。今回の「豊前市市民会館」のコンサート『和楽器っていいっちゃね～』において、『国東の賦』と『三雅』が並んだ構成は琵琶奏者の足跡や血脈にも思いを巡らす構成であり、又この２曲の委嘱者･作曲者４人が私も所属する日本音楽集団の団員である（あった）ことも嬉しかった。

エピソードの二つ目は『アンコール』である。

当初は「アンコール無し」を予定していたが、豊前に入ってから手にした進行表には『アンコール』の表記。「豊前市市民会館」のリクエストは、『黒田節』をやって欲しいんですが、、、とのこと。さ～て、どうする、、、

初日のORを済ませて戻った会館の控室で、急遽３人のアーティストによる『黒田節』の手付け（アレンジ）が始まった。最初は器楽のみのインスト版の積りが、〈うた〉も歌って欲しいんですが、、、、とのリクエスト。ORを『日本の絃楽器と〈うた〉』をテーマに行ったチームとしては断れない。

結果、HPでも〈うた〉を聴かせた藤高・簑田が『黒田節』を歌うことになったが、この「ムチャ振り」ともなりかねないリクエストに応えようと頑張る３人のアーティストの姿は、正に《人生意気に感ず》を地で行く姿であり、私が担当したこれまでの本事業の中でも印象に残る「彼らならではのアンコール」となった。

アウトリーチ進行シート（福岡県　豊前市）
丹羽　梓（サブコーディネーター）

実施日	令和３年９月30日
実施先	合岩中学校
対象・実施先の情報	対象：中学全校生徒（男23名・女19名） 体育館で実施
出演者	藤高理恵子（琵琶）、簑田弘大（三味線）、日原暢子（箏）
ねらい／目標	日本の絃楽器と「うた」

時間	内容（Lap）	具体的に行うこと、話す内容	配置・動き等
3：22	M1「三雅」より 『遊雅』 (3：22)	藤高（琵琶）、簑田（三味線）、日原（箏）	MCはマイクを使用（１人１本）体育館舞台袖から登場
9：05	・演奏者紹介 ・テーマの紹介 ・琵琶の紹介 ・琵琶奏者になった理由 ・『那須与一』について (0：45)	・演奏者紹介（名前、演奏楽器名） ・テーマを発表（日本の絃楽器の魅力を紹介） ・琵琶について（演奏場所、構造や音色） ・何故琵琶奏者になったのか ・『那須与一』について（物語の内容）	藤高MC 簑田・日原両端に移動
14：15	M2「平家物語」より『那須与一』 (5：10)	藤高（琵琶）	藤高ソロ
20：40	・三味線の紹介 ・三味線との出会い ・『勧進帳』について (2：30)	・三味線について（演奏場所、楽器の構造や奏法） ・三味線との出会い、続けようと思った理由 ・『勧進帳』について（物語の内容、情景）	藤高端に移動 簑田演奏位置へ移動しMC
25：35	M3『勧進帳』 (4：55)	簑田（三味線）	簑田ソロ
31：26	・箏の紹介 ・箏を続けた理由 ・『千鳥の曲』について (0：45)	・箏について（材質、絃の数、演奏場所、調絃の実演） ・習い事の一つだった箏を続けた理由 ・『千鳥の曲』について（母音を伸ばす、ゆったり聴いて欲しい）	簑田端に移動 日原演奏位置へ移動しMC
37：11	M4『千鳥の曲』 (5：45)	日原（箏）	日原ソロ
38：13	・3人が合奏できる理由 (0：40)	・通常、琵琶と三味線と箏は合奏できない（楽譜が異なるため） ・合奏する方法（西洋の五線譜を使用） ・「三雅」について（五線譜で書かれた新曲）	藤高、簑田、演奏位置へ移動 藤高MC
44：58	M5「三雅」より 『風雅』『童雅』 (6：45)	藤高（琵琶）、簑田（三味線）、日原（箏）	三重奏
45：32	・終わりの挨拶 (0：40)	・ありがとうございました	

感染症対策のためマスクを着用してのアクティビティ

実施団体：公益財団法人伊賀市文化都市協会
実施時期：令和３年11月25日（木）～令和３年11月27日（土）
出演アーティスト：麻植理恵子（箏・十七絃）　川崎貴久（尺八）　小林鈴純（尺八）

アクティビティ

タイトル：邦楽体験授業アウトリーチ
期　　日：令和３年11月25日　①９：40～10：20
　　②10：35～11：15
会　　場：崇広中学校　体育館
参 加 者：１年生　①67名　②68名　計135名

伊賀市内の街中にある崇広中学校で子どもたちに邦楽器の生の音を聴いていただく機会として学校への出張授業を行いました。子どもたちは箏を授業で学ぶ機会があるため、箏･十七絃に興味津々で、箏の話の時は食い入るようにアーティストの話を聞いて、邦楽について理解を深めていました。

タイトル：邦楽体験授業アウトリーチ
期　　日：令和３年11月25日　14：00～14：45
会　　場：阿山中学校　体育館
参 加 者：２年生41名

本公演会場近くにある阿山中学校で子どもたちに邦楽器の生の音を聴いていただく機会として学校への出張授業を行いました。生徒たちは尺八の解説の際、メリ・カリのところでなるほどといった感じで頷いたり、おーと声を出す子どもがいたり、多くの子どもに尺八や箏の楽器に興味を持っていただけたと感じました。

タイトル：邦楽体験授業アウトリーチ
期　　日：令和３年11月26日　11：35～12：20
会　　場：大山田小学校　そうぞの広場（ホール）
参 加 者：６年生36名

伊賀市内の豊かな環境の中にある大山田小学校のそうぞの広場という多目的ホールで子どもたちに邦楽器の生の音を聴いていただく機会として学校への出張授業を行いました。アクティビティの中で手や足を使って邦楽のリズムを感じる体験では、皆、笑顔で邦楽のリズムを楽しんでいました。また、アーティストへの質問でも、演奏者の普段の練習法など邦楽への興味を持っている子が多くみられました。

タイトル：邦楽体験授業アウトリーチ
期　　日：令和３年11月26日　14：40～15：25
会　　場：中瀬小学校　体育館
参 加 者：６年生15名

伊賀市郊外にある中瀬小学校の体育館で子どもたちに邦楽器の生の音を聴いていただく機会として学校への出張授業を行いました。外国人家庭の子どもや障害がある子どもなど多様な形のクラスにてアクティビティを行いました。児童の多くが正座でしっかり聞こうという体勢で臨みましたが、演奏家から、脚を崩してリラックスして聞いてもらえるよう、呼びかけがありました。授業の最後にはサプライズで児童の質問・御礼を言っていただき、児童の邦楽に対する興味深さが垣間見えました。

コンサート又は公募型ワークショップ等

タイトル：邦楽のいろは　～聴いて　聞いて　感動山盛り～
期　　日：令和３年11月27日　13：15~15：30
会　　場：あやま文化センター　さんさんホール
参 加 者：一般

伊賀市文化都市協会の主催事業「クラシックのいろは」の邦楽版として、第１部は初めてのお客様にも分かりやすいように解説を交え、第２部では本格的な邦楽器の演奏の中から和楽器の響き、音の素晴らしさを感じていただきました。

ホール担当者の意見・評価
事業課　坂井　充

① 応募の動機・事業のねらい

伊賀市文化都市協会では、平成27年度から子どもから大人までクラシック音楽に親しんでいただくクラシックのいろはというイベントを行っていますが、日本古来の音楽である邦楽についても地域の子どもから大人までわかりやすく触れていただける機会作りとして応募しました。

② 企画のポイント

邦楽をさまざまな世代に広く知っていただくため、まずはこれからを担う子どもたち世代へ生の演奏の素晴らしさを伝え、また家庭での話題に邦楽を出してもらうことで親の世代などにも興味を持っていただき、ホール公演では初めての方にもわかりやすく聴いていただける機会作りに重点を置きました。

③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

市内４つの小中学校で５回のアクティビティを行いましたが、学校間の移動時間やリハーサル時間の確保とスケジュール調整やシュミレーションに苦労しました。

④ 上記③をどのようにクリアしたか

実際に経路を走ったり、経路を地図ソフトなどを使い、計測し、移動に係る時間や準備に係る時間を考慮し、タイムスケジュールを調整しました。

⑤ 事業を実施しての成果

伊賀の子どもたちに邦楽の生演奏の素晴らしさを届けることができ、邦楽文化の敷居を下げられたと思います。伊賀の邦楽演奏者から「改めて邦楽文化の伝え方や素晴らしい演奏で色々どうしていくべきかを考える機会になった」との声もいただきました。演奏いただいた３名様によって伊賀地域の邦楽文化の振興に寄与できたと思います。

⑥ 事業を実施しての反省点・課題

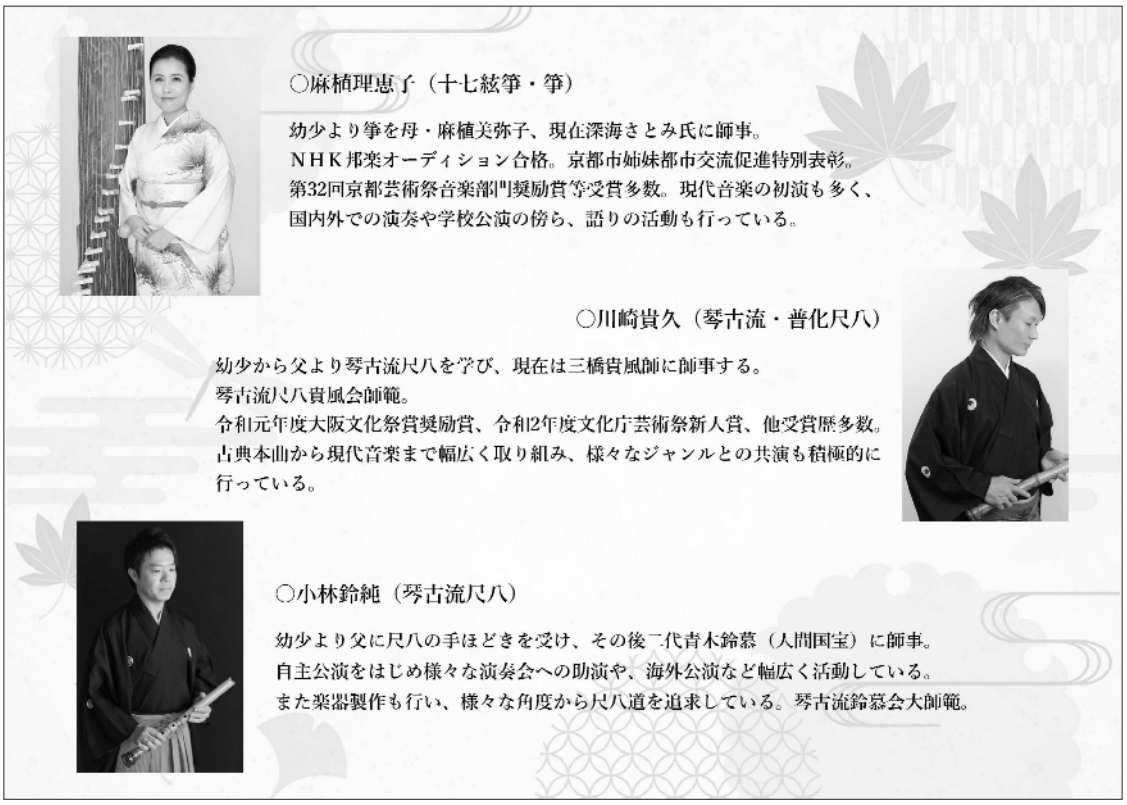
事業開始時点では、アクティビティの受け入れ人数が多く、演奏いただいた３名様やコーディネーターの皆様にご負担をおかけしたことを反省しております。伊賀の邦楽文化の灯を絶やさず、まだ邦楽を聴いたことのない世代や子どもたちに聴いて知っていただくために、これからも継続して邦楽に関するイベントなどを行っていくべきだと考えます。

⑦ 今回の事業を通じて、自身の「地域」または「ホール」について改めて考えたこと

今回の事業を通じて、伊賀という地域は邦楽を嗜んでいる方が多く見受けられましたが、自身で聴く、誰かに聴かせるという機会が少ないので、今回のアクティビティのようにさまざまな所へ出向きさまざまな方に聴いてもらうという事が一層必要だという事を考えさせられました。またホールで演奏を聴かせていただきましたが、残響や音の深みは学校という会場では出せない素晴らしい表現や創造であるという新たな発見も出来ました。

【参考資料】チラシ

公共ホール邦楽活性化事業
邦楽のいろは
～聴いて 聞いて 感動山盛り～
邦楽とその楽器のいろはを紐解きながら
箏と尺八がぐっと身近になる、ひととき。
初心者大歓迎。聴き慣れた人も目からウロコ！
川崎貴久（尺八）
小林鈴純（尺八）
麻植理恵子（箏）
令和3年11月27日（土）
開場13:15　開演14:00
演奏予定曲：「キビタキの森」（宮田耕八朗作曲）
「双竹絃舞」（水川寿也作曲）「呼返鹿之遠音」（古典本曲）　他
会場：あやま文化センター（伊賀市川合3370-29）
チケット料金：５００円【全席指定】
定員１５０名
※未就学児の入場はご遠慮ください。
チケット発売日：９月２６日（日）
【プレイガイド】
あやま文化センター　0595-43-1125
伊賀市文化会館　0595-24-7015
青山ホール　0595-52-1109
主催・お問合せ：（公財）伊賀市文化都市協会
電話0595-22-0511
共催：（一財）地域創造
後援：伊賀市・伊賀市教育委員会
名張市教育委員会
※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のお願い※
・ご入場の際はマスクの着参及び着用をお願いします。
・販売チケット、手荷い、手指の消毒徹底をお願いします。
・風邪症状がある方は、来場をお控えください。
・客席は感染予防措置がとれる座配置とさせていただきます。
※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては変更になる
場合がございます。


○麻植理恵子（十七絃箏・箏）
幼少より箏を母・麻植美弥子、現在深海さとみ氏に師事。
ＮＨＫ邦楽オーディション合格。京都市姉妹都市交流促進特別表彰。
第32回京都芸術祭音楽部門奨励賞等受賞多数。現代音楽の初演も多く、
国内外での演奏や学校公演の傍ら、語りの活動も行っている。
○川崎貴久（琴古流・普化尺八）
幼少から父より琴古流尺八を学び、現在は三橋貴風師に師事する。
琴古流尺八貴風会師範。
令和元年度大阪文化祭賞奨励賞、令和2年度文化庁芸術祭新人賞、他受賞歴多数。
古典本曲から現代音楽まで幅広く取り組み、様々なジャンルとの共演も積極的に
行っている。
○小林鈴純（琴古流尺八）
幼少より父に尺八の手ほどきを受け、その後二代青木鈴慕（人間国宝）に師事。
自主公演をはじめ様々な演奏会への助演や、海外公演など幅広く活動している。
また楽器製作も行い、様々な角度から尺八道を追求している。琴古流鈴慕会大師範。

コーディネーターレポート
伊藤　由貴子

コロナ禍の下での事業実施も２年目に入り、こうすればできる！という新しいノウハウが生まれてきたと感じています。とはいえ、相変わらずさまざまな制約や配慮が必要でした。そのことの負担の数々をにこやかに引き受け、事業を実現させた「チーム伊賀」のメンバーと関係各位に、まずは感謝申し上げます。また、今回、コロナ禍での進行で、本来想定されている地域創造のプログラム作りの日程に比べ、相当簡略化したスケジュールとなりましたが、その中でもリアルで行った研修やリハーサルで密度濃く集中し、最後までプログラムを磨き上げた演奏家たちの粘り強さに、この場を借りて賛辞を贈りたいと思います。

１、基本方針

初顔合わせの全体研修会では、まず、今回の事業を届けたい内容と対象を考えることからスタートしました。主催者である（公財）伊賀市文化都市協会（以下「ぶんと」と記します）で実施している普及的な音楽事業「クラシックのいろは」や「なるほどクラシック」等の実績を活かし、ホール公演の対象は親子（３歳程度の小さな子どもから入場OK）と想定、また地域アクティビティは、小学校低学年を対象にした学校プログラムで構成する方針を立てました。しかし、その後、三重県でも緊急事態宣言が発せられ、伊賀市では小学生以下の子どもが参加する事業はすべて中止となってしまいました。このため、ホール公演は一般向けのトーク付きコンサートに変更となりました。

一方で、地域アクティビティは、「ぶんと」の調整により中学校３校と小学校１校で、２日間フルに使って実施することになりました。ただ、できるだけ多くの児童生徒に生の邦楽演奏に触れる機会を享受させたいという学校側の希望と、コロナ禍対策で体育館を使用するとしても音楽体験の場としては１回の対象は40人程度までが限界、と考える地域創造側とで、意見の調整を必要としました。結果的には、大規模校でのアウトリーチを「ぶんと」負担で一コマ増やしていただき、適正な人数での実施が実現しました。

今回のアーティスト・リーダーである麻植さんは、「十七絃を主役にし、楽器の一音の持つ力の魅力を伝えたい」「尺八２管と箏、十七絃という編成を活かすプログラム」「伊賀の自然を感じられる選曲」「伊賀生まれの松尾芭蕉との関連性」等を基本構想としていました。併せて、「ぶんと」で実施中のクラシック事業の枠組みや内容に邦楽を接続することで、今後も邦楽事業が継続するよう道筋を付けようという戦略もあったようです。

２、コロナ禍での下見

麻植さん、地域創造担当者と私の３人で現地へ赴いたのは９月16日。「ぶんと」の担当お二人のご案内で、学校アクティビティを予定している４校と、ホール公演を行うあやま文化センターを１日で回りました。

「回った」と書きましたが、９月末までは緊急事態宣言下でしたので、学校関係は、体育館の中はおろか敷地内にも入れません。塀越しや駐車場から外観を眺め、あらかじめ「ぶんと」側でご用意くださった写真や図面と照合し、体育館内部を想像し、プランを立てるしかありませんでした。それでも現場に行くことで、その地域の環境、道路からの騒音の状況、体育館のキャパ感や校舎からの動線など、現場に行ってこその情報を多く得られました。また、「ぶんと」の方の運転で現地を回る間、道々の会話か

らつかむ地域情報も多々ありました。米どころであること、自然豊かでホールのガラス越しに野生のシカやイノシシと遭遇することもあること、忍者の伝統に連なる「服部さん」の多さ…。それらがアクティビティやコンサートでのトークのネタにどんどん取り入れられていきました。

実地研修会は10月に実施。大阪の貸しスタジオにアーティスト３人とサブ・コーディネーター、地域創造担当者と私が集まり、主に学校アクティビティのためのプログラム作成を行いました。ここでは、内容が学校側の予定している時間内に収まるか、この説明の仕方で子どもたちに邦楽の本質は伝わるか、などを検討、ブラッシュアップをめざしました。

一方コンサートのプログラムは、最初こそ演奏側の思いの強さゆえ時間的に長めのプランでしたが、次第に整理され、現地入りしてからのリハーサルで最終的に固めていきました。

３、邦楽ならではの工夫

より多くの方々に邦楽への扉を開き、その魅力を届ける機会としたい。そのために、アーティストにも「ぶんと」の担当者にも意識していただいたことがあります。

まずは、いかに平易な日本語でシンプルかつ的確に伝えるか。例えばプログラム・ノートやプロフィールの文章、トークでの言い回し。邦楽に接する機会が少ない方や子どもたちに、これで伝わるだろうか？同じことを他の言葉で言い換えられないか？邦楽用語や人の名前など、馴染みのない人に読めるだろうか？

ホール公演では、当日配布のプログラムの用語や人物名に全てルビを振ることで、難しい曲名や用語へのストレスを緩和しました。このことは、必ずしも子ども向けの対応ではなく、現在の邦楽にとっては一般的に必要なことと思います。

個人的な好みもあるかもしれませんが、私が少々気になったのは、アーティスト写真に正面を向いたものがなかったこと。箏演奏中は下を向いているし、尺八吹奏中は深刻な表情になっています。それで「邦楽にようこそ！」という感じが出るでしょうか？　主催者側がチラシを作るとき、楽器を持ち、正面を向いた笑顔の写真がきっと欲しいと思います。演奏者の方々は、これから撮る時は是非１枚でもそういうカットを撮っておいてください！

４、学校プログラム

学校プログラムでは、当日、体育館内に入ってから、アクティングエリアと演奏動線を決めていきました。基本的には、体育館の舞台は使用せず、３方の壁のいずれかを背にしてアーティストを配置し、それを囲むように子どもたちに座ってもらい、ソーシャルディスタンスを確保しつつも、双方が心理的に近く、集中できるように考えました。また、日差しの向き、音の響き方により、２階部分のカーテンの開閉、デッドならホワイトボードを演奏者の背後に置いて反響を補うなどの「小技」で対応しました。

ただ、やはり聴く環境については課題を感じました。コロナ禍なのでやむをえないことですが、換気のために窓を開けるため、寒さと外からの騒音は、アーティスト・子どもたち双方にとってストレスだったと思います。今回、大山田小学校では唯一体育館ではなく、音楽室並みの環境で実施できたのですが、その折の子どもたちのリラックスした表情とアーティストたちののびやかな演奏が印象に残っています。

プログラムは、基本プログラムを１つ作り、それを４校の空間と対象学年、人数によって若干カスタマイズする、という形で準備しました。アーティストたちが柔軟性全開で取り組んだお陰で、この空間ならこの動き、というように、非常にスムーズにできたと思います。例えば、冒頭の「つかみ」である「尺八で『鹿の遠音』を演奏しながら登場する」という演出では、各学校に到着するたび、尺八奏者両人が体育館内を探索し自らの動線を考えました。アウトリーチ冒頭、思わぬところから尺八の音が聞こえてくることで、子どもたちをハッとさせ、２階と１階に分かれ演奏するなど体育館を立体的に使うことで、響き渡る尺八の音色に包まれる稀有なる体験を届けることができました。また、間近に交流しがたい中でもなんとかコミュニケーションを生み出そうと、楽器紹介の中での三択クイズや、子どもたちが手拍子でアーティストと共演する等の工夫を随所に取り入れました。

このほか以下のような工夫も盛り込みました。尺八奏者の一人が虚無僧の装束で登場。内側が素のままの尺八と漆を塗った尺八との音の聴き比べ。「六段」の一節を唱歌（しょうが）で歌ってから同部分を箏で演奏。「尺八の音の名前は、ドレミではなく、ロツレチリと言います。実際に吹いてみましょう」から始まる尺八解説等。いずれも邦楽の多彩で独自な世界を、できるだけ演奏している者ならではの切り口で伝えられるよう留意しました。

こうしたプログラム誕生には、音楽教育に積極的な麻植さんの発想力と経験、二人の尺八演奏家の存在が功を奏したと思います。川崎さんの普化尺八、小林さんの尺八製作という特技（？）により、楽器の紹介の幅が広がりました。アーティストがそれぞれの楽器に対する愛情をにじませる誠実なトークは、子どもたちの心にまっすぐに届いたのではないでしょうか。

４、ホール公演の工夫

ホールプログラムは「邦楽のいろは」と題し、より本格的な音色をお聴きいただくことを目的としました。前半は入門的な内容、後半は演奏中心にし、メリハリが付きました。

冒頭、虚無僧が尺八を吹きながら暗い舞台の上を横切って消える、という演出や、客席が参加する楽しいコーナーも交え、お客様と少しでも交流し、心を開いて音楽を受け入れていただくことをめざしました。前半の最後「キビタキの森で」は照明演出入りで演奏。あらかじめ麻植さんから照明担当に曲のイメージを伝え、照明プランを立ててもらいました。これには「ぶんと」側の経費負担が増えるという面があったかと思いますが、まさに森の中にいるような清々しい舞台となり、邦楽への印象が変わるひとときになったと思います。

後半は、曲目紹介を交えながら、十七絃のソロ、尺八本曲、そして尺八二管と十七絃のアンサンブルをたっぷり味わっていただきました。

全体を通して多彩なプログラムが出来上がりましたが、これをやり遂げるには多くの舞台転換を要することにも直面しました。舞台上の箏・十七絃の位置や向き、ソロとアンサンブルとの違いにより、客席の聞こえや音楽のバランスが、思いの外変わってしまうことが、リハーサル時にわかったからです。よりよい音とバランスで音楽を客席に届けるために、ほぼ曲ごとに転換することになりました。これをいかにスムーズに、見苦しくなく行うか、地域創造含め関係するスタッフ全員が集中して頑張った結果、一期一会の素敵なコンサートをやり遂げることができました。スタッフ一同に感謝です。

お客様は、邦楽を趣味とする方と生演奏を初めて聴く方の両方がいらっしゃったようですが、アンケー

ト結果から推察するに、そのいずれもが、このコンサートから邦楽に対する新鮮な印象を受けたようでした。また麻植さんの語りかけるようなトークは大変好評で、麻植さんの「伊賀のお米がおいしい」とのコメントを聞き、伊賀の尺八の先生が、お土産にとお米を持って楽屋を訪れる等、楽しいエピソードも生まれました。

５、市町村の文化振興政策との関係

最後に、今回の伊賀市での実施を通し、改めて認識したことについて少し触れておきます。それは、本邦楽活性化事業が、単に邦楽の魅力と可能性を伝えるにとどまらず、実施する市町村の文化振興政策における起爆剤的な役割を果たすことが期待されている、ということです。

「ぶんと」は､「クラシック人口１％」を目標に掲げて６年前に音楽事業をスタートさせ､西洋クラシック音楽の公演を数多く行っておられます。今回の邦楽事業に取り組んだのは、西洋クラシック音楽も日本の伝統音楽「邦楽」も、数百年の長きにわたって引き継がれてきた芸術という点では同じであると考えたからだそうですが、この視点はまさに慧眼。こうした自治体や財団等が増えてきたら、日本中の公共施設の音楽事業がもっと豊かになると思います。

そして、「ぶんと」では今、観客の年齢層の拡大を図るべく事業拡大を図っており、2021年に「伊賀市文化振興プラン」が策定されたのに併せ、今後４年間ですべての小学校にアウトリーチをするという計画も浮上しているそうです。今回の邦楽事業をその第一歩として位置づけたい、と今回の事業の振り返りの折にうかがいました。

今回の事業が、市町村の文化振興のための、次のアクションにつながるかと思うと、本当に嬉しいですし、そうした動きが全国で生まれることを祈ってやみません。

アウトリーチ進行シート（三重県　伊賀市）
大久保　真利子（サブコーディネーター）

実施日	令和３年11月26日
実施先	伊賀市立大山田小学校
対象・実施先の情報	三重県北西部に位置する大山田小学校の「そうぞの広場」にて、６年生37名を対象に実施。「そうぞ」とは大山田地方の方言で「みんな・おおぜい」という意味。木材をふんだんに使ったホールで、とても和やかな雰囲気であった。
出演者	麻植理恵子（箏、十七絃）、川崎貴久（尺八）、小林鈴純（尺八）
ねらい／目標	箏・十七絃や尺八の魅力を伊賀の自然に絡めながら伝える

時間	内容（Lap）	具体的に行うこと、話す内容	配置・動き等
【セッティング】 ・箏および十七絃は下手、尺八は上手にて立奏 ・麻植はヘッドセットマイク、川崎・小林はハンドマイクを使用 ・舞台上手うしろに衣装チェンジおよび待機のためのパテーションを設置し、曲目のパネルを貼り付け ・箏・十七絃のうしろに反響板の代替としてホワイトボードを設置し、演奏者氏名を記入			
０：00	校長先生からの挨拶。 呼び込み（１分）		麻植：入場
１：00	MC1（３分） 麻植：導入、曲紹介	みなさん、こんにちは。私は箏奏者の麻植理恵子。 伊賀には服部という姓が多いと聞いた。服部さん居る？ 私はずっと滋賀に住んでいたので、伊賀はすごく身近な地。自然豊かで素敵。伊賀では鹿によく出会うらしい。伊賀で生まれた松尾芭蕉も、「びいと啼く尻声悲し夜の鹿」という句を詠んだ。 最初は《呼返鹿之遠音》。あれ？何か聴こえてこない？	麻植：曲目を指さす
３：39	M1（７分） 《呼返鹿之遠音》	尺八２本	川崎・小林：児童の後ろから左右に分かれて歩きながら演奏。麻植はパテーション内で待機
８：40	MC2（８分30秒） 麻植：箏の紹介	演奏は、川崎貴久さん、小林鈴純さん。 箏の歴史、爪の説明。 今日は２種類の箏を持って来た。長さも大きさも違う。どちらの楽器が音域が広いかな？絃の数を数えながら音を出してみる（実演）。十七絃のほうが音域が広い。 箏は奏法や音高をうたうことができる。唱歌という。《六段の調》で唱歌の実演→箏で実演。唱歌「ツルツル」の３択クイズ。琴柱を動かすなどの奏法の紹介と実演。	・麻植：入場 ・川崎・小林：紹介に手を振り応え、その後パテーション内で待機 ・箏、十七絃を立てて長さの違いが分かるように提示 ・「琴柱」パネルを出す
17：12	MC3（３分） 合奏	みんなで一緒に合奏してみようか。その場で立って少し手足を動かして。それでは手拍子と足拍子で真似してね。「タンタンタンタタ」(※《譚歌》の十七絃のリズム)。イイ感じ！そのまま続けてね（十七絃と尺八２本が《譚歌》で入る）。楽しかったね。自分とお友達に拍手！それでは次は、演奏を聴いてみて。	・箏をハケる ・川崎・小林：手拍子のタイミングで入場
20：15	M2（５分） 《譚歌》	十七絃、尺八２本	
25：34	MC4（11分） 小林:尺八の紹介（４分） 小林:楽器の構造（３分）	尺八という名前の由来知ってる？色々な長さがあるが、一尺八寸が基本。一と寸が無くなって真ん中だけ残った。一尺八寸は何cm（３択）？正解は54cm。 尺八の歴史。江戸時代には「虚無僧」が吹いていた。 あれ？何か聞こえてきたね？（川崎:《虚鈴》の一部を実演）。みなさんに馴染み深い忍者も、正体を隠すために虚無僧姿で歩いていたらしい。もしかしてあなたが忍者ですか？（虚無僧姿の川崎に問いかける→天蓋を外し一礼）川崎さんでしたか！ 私（小林）は尺八の製作も行う。尺八はとてもシンプル。孔は５つ。息を当てるところは歌口。中は空洞で、現在は漆を何度も塗り込む。孔を開けただけの楽器（川崎：実演）。漆を塗った楽器（川崎：実演）。	・十七絃をハケる ・「一尺八寸」のパネルを出す→パネルの両端を折り「尺八」にする ・「虚無僧」のパネルを出す ・川崎：虚無僧姿で登場

	川崎:尺八の奏法（４分）	尺八の音名はドレミではなく「ロツレチリ」。「メリ」や「カリ」などの奏法や音色の変化を、川崎の指示に合わせて小林が実演。 尺八にも唱歌がある。「コロコロ」や「玉音」を使って、鶴の鳴き声を描いた曲がある（小林：《巣鶴鈴慕》の一部を実演）。	・川崎：虚無僧から着物に戻って入場 ・箏を入れる
36：39	MC5（２分30秒） 麻植：曲紹介	最後の曲は《キビタキの森》。キビタキという鳥をみたことがある？とても色鮮やかで、鳴き声が美しい鳥。この曲は、「朝もやのなか山を登っていたら、急に大雨が。でもすぐに晴れて、葉っぱに雫がキラキラ光り、鳥もいっぱい鳴き出し、あー、楽しい山登りだった！」という曲。今がどの場面か想像しながら聴いてほしい。	麻植：入場
39：11	M3（６分） 《キビタキの森》	箏、尺八２本	
45：26	MC6（２分） 麻植：挨拶、ホール公演告知		ホール公演のポスターを出す
45：39	先生からの挨拶。児童からの質問（５分）	奏者ひとりにつき、２問程度の質問あり。その場で奏者が回答。	

大山田小学校でのアクティビティ

実施団体：公益財団法人つくば文化振興財団
実施時期：令和４年２月19日（土）・２月28日（月）～３月１日（火）
出演アーティスト：本田　浩平(津軽三味線)　橋本　大輝(津軽三味線・唄)　安藤　龍正(津軽三味線･太鼓･踊り)

アクティビティ

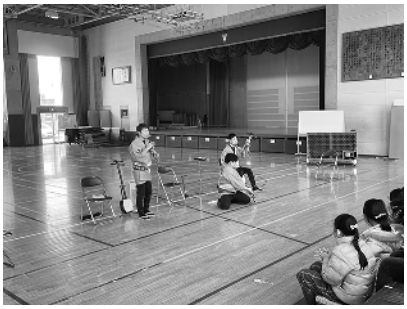
タイトル：つくば市内小学校アウトリーチ（真瀬小学校）
期　　日：令和４年２月28日（月）　10：25～11：10
会　　場：つくば市立真瀬小学校　体育館
参 加 者：４年生16名　５年生30名　計46名

「アーティストと子ども達のコミュニケーション」を重視し、民謡を中心とする６曲約45分のプログラムを実施。津軽三味線の醍醐味を味わえる勢いのある曲から始まり、「どじょう掬い」など視覚的に面白い曲や、手拍子・拍手で参加できる曲を演奏した。子ども達に馴染みのない要素が多い中、クイズや掛け合い等MCの方法を工夫し、「面白い」と思ってもらえる内容を心がけた。（以下、内容全て同じ）

タイトル：つくば市内小学校アウトリーチ（谷田部南小学校）
期　　日：令和４年２月28日（月）　13：10～13：55
会　　場：つくば市立谷田部南小学校　体育館
参 加 者：４年生16名　５年生19名　６年生11名　計46名

曲中の拍手やクイズに積極的に参加する子が多かった。終了後、参加者が御礼の挨拶をする場面があったが、アーティストをニックネームで呼ぶ・それぞれの面白い／すごいと思ったところ（唄がのびのびしていた･魚が動いていてすごかった･三味線が力強かった）を詳細に述べていたのが印象的で、プログラムの内容が子どもの心に強く残ったことを感じた。

タイトル：つくば市内小学校アウトリーチ（竹園西小学校）
期　　日：令和４年３月１日（火）　10：30～11：15
会　　場：つくば市立竹園西小学校　体育館
参 加 者：４年１組　36名



アーティストを普通に受け入れて会話し、楽しんで参加してくれた。アーティストの力量はもちろん、担任の先生のキャラクターが大きく反映されているように感じた。「津軽じょんがら節」では、子ども達が一曲全て手拍子・足拍子でアーティストを応援したり、「どじょう掬い」では、どじょうが出てくる場所を予想して覗き込んで楽しみにする子も多く見られた。

タイトル：つくば市内小学校アウトリーチ（竹園西小学校）
期　　日：令和４年３月１日（火）　11：20～12：05
会　　場：つくば市立竹園西小学校　体育館
参 加 者：４年２組　36名

前クラスと比較すると大人しいが、アーティストと会話したり、クイズに正解すると立ち上がって喜んだり、「どじょう掬い」の踊

りを興味津々で覗き込んだり、普段馴染みのない「民謡」でも「面白いもの」として素直に受け入れ、楽しむことのできる柔軟性を感じた。

タイトル：つくば市内小学校アウトリーチ（竹園西小学校）
期　　日：令和４年３月１日（火）　13：30～14：15
会　　場：つくば市立竹園西小学校　体育館
参 加 者：４年３組　36名

アーティストが、少し大人しい子ども達の反応に合わせてMCの内容を微調整し、場のテンションを無理なく盛り上げていることを感じた。その結果､後半の「津軽じょんがら節」や「南部俵積み唄」では、演奏中にアーティストと言葉を交わしたり､「すごい」と歓声を上げたりする場面も見られた。

タイトル：つくば市内小学校アウトリーチ（竹園西小学校）
期　　日：令和４年３月１日（火）　14：20～15：05
会　　場：つくば市立竹園西小学校　体育館
参 加 者：４年４組　36名

「どじょう掬い」にて、安藤氏がプログラムに集中できていない端の子の前でどじょうを出した。（それまでは、見えやすい中央でどじょうを出していた。）クラス中の注目が集まり、子どもが照れくさそうに・嬉しそうにしており、アーティストの肌感覚の凄さを感じた瞬間だった。このクラスもラストには拍手が手拍子になり、端の子も一生懸命手を叩いていたことが印象的だった。

コンサート又は公募型ワークショップ等

タイトル：梟vsふくろう
期　　日：令和４年２月19日（土）　14：00～16：00
会　　場：つくばカピオホール
参 加 者：一般　186名（未就学児入場不可）

民謡・津軽三味線の渋く力強いクラシカルな「剛」の面と、明るく賑やかで親しみやすい「柔」の面、両極端に異なる２つの魅力をお届けすることをテーマに、タイトルを「梟vsふくろう」とした。つくばでは民謡に馴染みのない人も多かったが、演奏・MC共にお客様を魅了し､特に第２部の「津軽じょんがら節」ではＭＣが始まっても拍手が鳴りやまず、終演後も沢山の感動の言葉をいただいた。

ホール担当者の意見・評価
企画課　香川　志帆

① 応募の動機・事業のねらい

これまでつくばで実施するコンサート・アウトリーチはクラシック音楽がほとんどで、和楽器・邦楽を取り上げたことはなかった。今回そのノウハウを得て、今後の事業の幅を広げていきたいと考え、応募に至った。

② 企画のポイント

アクティビティ：「自分が好きなことを究めて仕事にした大人」と子どもとの交流を軸に、MCや見せ方などを工夫してプログラムを組んだ。地域交流の現場では様々な立場の方が各々の希望を持って関わるため、コンセプトがブレないよう、明確に言語化して何度も確認することが重要だと感じた。

コンサート：「民謡・津軽三味線の剛の面・柔の面を両方魅せる」をコンセプトに、ふくろうが大事にしたい空気感を軸として、コーディネーターのアドバイスをいただきながら、お客様に届くコンテンツの雰囲気もこれに合わせられるよう配慮した。

③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

アクティビティ２週間前に、新型コロナウイルスにより急遽小学校が全校休校になり、受け入れ不可になったこと。そのための対応の検討や調整に一番苦慮した。

コンサート・アクティビティのプログラム自体は、アーティストが非常に経験豊富で、とても柔軟にご対応くださったので、とても心強く準備を進めることができた。

④ 上記③をどのようにクリアしたか

アーティスト、コーディネーター、地域創造の御担当者、小学校御担当者など、関係者皆様のお力を借りて、日程を延期して対面実施することができた。調整自体は大変で、様々にご迷惑をおかけしたが、皆様と「子ども達に音楽を届けたい」という前向きな気持ちを逐次確認しながら、連携して話を進めることができた。コロナ禍で、オンライン等いくつかの実施形態の選択肢から１つを選ぶことになったが、アクティビティのコンセプトを再確認しながら、ブレずに対応を決めていくことができたと思う。

⑤ 事業を実施しての成果

・コンサート：事業の出発点自体は「津軽三味線」だったが、ふくろうが民謡酒場の出身ということで、日常生活から縁遠くなっている「民謡」を、バリエーション豊かにお客様に届けることができた。ふくろうのMC力もありながら、知らない曲でも身体がノッてしまう「民謡」の魅力をお客様と共有する素敵な時間になった。

・アクティビティ：終了後のアンケートに「自分も好きなことを一生懸命やって、ふくろうみたいになりたい」と記入した参加者がおり、プログラムの主旨が子ども達に届いたことを感じた。

⑥ 事業を実施しての反省点・課題

「民謡」を知らない世代にも楽しんでもらいたいという観点から、チラシデザインの工夫・SNSでの

発信等を行ったが、若年層の来場は少なかったように感じた。
　新型コロナウイルスにより、アクティビティとコンサートの順番が逆転したため、アクティビティ受入学校への直接的な宣伝が難しく小学生の来場が少なかったことに加え、大学の津軽三味線サークル等へのリーチが上手くいかなかったという側面もあるが、若年層に直接届く宣伝方法を模索していきたい。

⑦　今回の事業を通じて、自身の「地域」または「ホール」について改めて考えたこと
　「民謡」や「和楽器」に馴染みのない方が多い地域なので、コンサート・アクティビティそれぞれに、拍手の勘所がわからないという場面が多く見受けらた。しかし、大人でも子どもでも、手拍子等でアーティストと一緒になって楽しめるチカラを「民謡」、ふくろうのみなさんに感じた。ホール担当者として、邦楽に携わるのは初めてだったが、地域にとっても馴染みのないジャンルを扱う際、そのジャンルの魅力やアーティストが大事にしたい空気感を、地域のお客様・アクティビティ受け入れ先の方々にしっかり届けられるよう、担当者がその仲介役を担っていけたらと思う。

【参考資料】チラシ

2022. 2.19 sat.
13:00open 14:00start
津軽六段
津軽よされ踊り
津軽
祭
VS
ふくろう
祭
日本一のどじょう掬い
津軽じょんがら節
つくばカピオホール
¥1,000

さあさお立ち会い、新進気鋭の若手三人衆がつくばカピオに見参!津軽三味線・民謡・民舞、受け継がれし日本の魂、とくとご覧あれ!
祭 VS ふくろう
第1部 津軽
津軽六段
津軽よされ踊り ほか
第2部 祭
日本一のどじょう掬い
津軽じょんがら節 ほか
【ふくろう】木田浩平、橋本大輝、安藤龍正からなる伝統芸能ユニット。芸は身を助ける(不苦労)、観て頂いた方に幸せな気持ちを運ぶ(福来郎・福郎)という言葉の思いで命名。それぞれ幼き頃より伝統芸能に親しみ、東京の民謡酒場で修行に励みつつ出会い、共に数多くの舞台を踏む。津軽三味線、民謡、民舞など3人編成ながらもバリエーション豊富な舞台を展開し、聴くだけではなく観て楽しんでもらえるパフォーマンスに努める。また各分野における全国大会でも数々の優勝経験を持ち、国内外を問わず幅広い世代に伝統芸能の普及と発信を行っている。
2022. 2.19(土) 14:00 開演(13:00 開場)
つくばカピオホール
全座指定1,000円(税込)
Ticket
つくばカピオ 029-851-2886
ノバホール 029-852-5881
茨城県県北芸術劇場 029-856-7007
財団HP tcf.or.jp

コーディネーターレポート
米澤　浩

コロナ下での【熱量】

今回「つくば市」を担当したのは、津軽三味線奏者の本田浩平さんがリーダーとなり、津軽三味線・唄の橋本大輝（ひろき）さん、津軽三味線・踊の安藤龍正（たつまさ）さん、この３名による『津軽三味線・民謡ユニット ふくろう』の面々だった。（以下、敬称略）

まん延防止等重点措置の中

「つくば市」での事業も他の市と同様に新型コロナ感染症の影響下での実施となったが、「つくばカピオ」（以下：カピオ）のご担当者はアウトリーチ（以下：OR）実施校の募集案内に「アーティストの思い」を盛り込んで下さる等、どんなORを「カピオ」が届けようとしているか？を学校の先生方に伝える工夫をして下さった。実施校３校が決まるのにそれほど時間を要さなかったとのことだが、その後大規模校からの「２クラス合同での実施は控えたい」との要望があり、本来「２日間４公演」のORを、アーティストのスケジュールを調整して「３日間６公演」に拡大して実施することとなった。（追加分の経費は「カピオ」がご負担）

現地下見は感染拡大防止に配慮した上でどのようにORを実施するか？を軸に、各実施校それぞれの不安要素を可能な限り取り除くことに重きを置いた。しかし下見後、まん延防止等重点措置が施行されて学校の授業がリモート授業になってしまい、当初予定していた実施日ではORの〈対面実施〉は出来なくなってしまった。

既に「カピオ」ではホール公演のチケットを発売して事業実施に向けて動いていた中であり、この状況は「カピオ」ご担当者の頭を悩ませることになった。予定通りの日程でORをネットで〈ライブ配信〉する選択肢もあったが、ご担当者が下した決断は「ORは当初の予定から約２週間延期して〈対面実施〉の可能性を残し、既にチケットを発売している〈ホール公演を先行実施〉する」という本来とは実施順を逆転させる内容であった。

その背景には「カピオ」ご担当者に『ふくろう』のORを可能な限り〈対面実施〉で子ども達に届けたいという強い思いがあったのだが、それはご担当者が『ふくろう』のプログラムに惚れ込んで下さっているためと受け止めた。延期の決断により「カピオ」ご担当者には常には無い頻度で学校側との連絡・調整を行って頂き、並々ならぬご尽力を頂くことになった。

『ふくろう』というユニット

本田は「津軽三味線コンクール全国大会で優勝」、橋本は「日本郷土民謡協会全国大会で三味線太鼓の部優勝・民謡ハイライトの部での総合優勝」、安藤は「安来節全国大会で５部門中の三味線・鼓・踊（どじょうすくい）・銭太鼓の４部門で優勝」という面々で、言ってみれば『ふくろう』は『芸達者が揃ったチャンピョンズトリオ』である。そしてこの３人は、共に若い頃「民謡の店追分」という民謡酒場で演奏者としての腕を磨いただけでなく、お客様方とのコミュニケーション能力も培って来ていた。

「カピオ」ご担当者はホール公演に向け、彼らが持つ「演奏力に裏付けされた《カッコ良さ》」と「培ったコミュニケーション力による《親しみやすさ》」の二つの魅力を伝えるため、この報告書の38ページにあるチラシを作って下さった。ホール公演を『梟vsふくろう』と銘打ち、第一部《津軽》では彼らが持つ「演奏者としての《カッコ良さ》」、第二部《祭》では客席を包み込んで行く「彼らの《親しみやすさ》」、それぞれのイメージを前面に出して「カピオ」が目指している『今回のコンサート像』と『ふ

くろう』が持つ魅力をアピールして下さった。

「カピオ」ホール公演

「つくば」入りした初日はホール公演のリハーサルからスタートする予定であったが、その時点でも「ORが〈対面実施〉か？ネットでの〈ライブ配信〉か？」判らない状態であった。

ORの実施を約２週間先送りしたことにより『ふくろう』メンバーのスケジュールが非常にタイトになったため、ホールリハ前の午前中「カピオ」からほど近い会場で『ふくろう』メンバーはORのリハーサルと資料映像作り、並行してスタッフチームでは〈対面実施〉と〈ライブ配信〉が混在した場合など色々なケースを想定して対応の整理を行った。

午後は「カピオ」に入り翌日のホール公演のための会場練習を行いながら音響･照明のチェックを行ったが、ここでは技術スタッフの皆さんからの全面的な協力を得て微妙な音響バランスの調整や曲毎にイメージを作って下さった照明の確認が行われ、翌日のホール公演への準備が万端整った。

「カピオ」ご担当者のホール公演に向けてのご準備と、舞台を支えて下さったスタッフの皆さんのお蔭でホール公演は大成功であった。印象深かったのは、公演終了後にご担当者から伺った「第二部が終わった時の拍手の圧はかなり印象的でMCが始まっても拍手が終わらないのは本当に稀である」という言葉であった。今回の「カピオ」ホール公演で感じたことは、近寄りがたいような《カッコ良さ》とパフォーマンスの最中に観客の方々から笑顔がこぼれる《親しみやすさ》、彼ら『ふくろう』が持つ「非常に振り幅の大きな二つのスキル」がお客様方をステージに引き込んで行く大きな力となっていたことだ。

又２週間後にORを控えた小学校の先生が、素敵な花束を携えてホール公演を見に来て下さっていた。公演後に鳴り止まなかった拍手の中にその先生もいらしたことを思うと「何としてでもORを〈対面実施〉で行いたい！」と強く願ったのは、私だけでは無いだろう。

いざ、ORへ

茨城県でもまん延防止等重点措置を延長し、県の判断基準もステージ４に引き上げられていたが、基本的に小学校では可能な限り感染症対策を行ったうえで通常授業に戻し、予定の行事も実施するとのこと。しかし、２週間先送りしたORが〈対面実施〉で行えるかどうかは、実施直前の週末金曜日の段階での学級・学年閉鎖などの有無で決まることになった。「カピオ」ではネット配信に対応できる市内のスタジオの仮押さえを継続しつつ、２月の最終週を迎えることになった。

気を揉みつつ迎えた金曜夕刻、「カピオ」から全校でORを〈対面実施〉で行う確認が取れたとの連絡が入って来た。「カピオ」ご担当者・『ふくろう』メンバー・地域創造スタッフ全員が願い、受入れて下さった３校の先生方も「延期をしてでも〈対面実施〉が望ましい」とご理解ご協力を頂いたOR実施のため、再び全員が「つくば」に集結した。

２週間先送りしたことにより『ふくろう』メンバーが対応できる日程が２日間のみになってしまい、３日間６公演の予定を１日目は２校で２公演、２日目は大規模校１校で４公演実施することになった。１日４公演のOR実施は地域創造としても初めてである。

コロナによる閉塞感は子ども達も例外ではなく、いかばかりだったろう。目の前で繰り広げられるパフォーマンスに接する機会も非常に少なかったに違いない。子ども達にとって久々の体育館での鑑賞行

事だったかも知れないが、コミュニケーション力に長けた『ふくろう』メンバーは距離感も緊張感も子ども達に感じさせることはなかった。

全てのORで横から子ども達の様子に注目していたが、自分達の目の前で『カッコイイところ』や『民謡の面白さ』を披露して行く「お兄さん達の姿」に引き込まれていたようだ。２日目の４回公演では橋本の喉を心配していたが、橋本は難なく唄い切ってみせた。子ども達も本田の津軽三味線「曲弾き」の途中では拍手で演奏を盛り上げ、「どじょう掬い」や「銭太鼓」では安藤の踊に手拍子を入れるなどして初めて見聞きするだろう『民謡』に入り込んでいた。

「どじょう掬い」では、『ふくろう』もチームプレーで「どじょうを追う安藤の手元」に子ども達の目をくぎ付けにし、子ども達が「前のめり」になって見ていた姿が印象的であった。

余談となるが、本田は中学２年の時にTVで「カッコイイお兄さん」が津軽三味線を弾いているのを見て津軽三味線を始め、『日本一』にまでなった。「つくば」から第二の本田浩平が出て来るかも知れないと、期待したくなるORであった。

最後に

コロナ下であっても（もしかするとコロナ下だからこそか)、

・「カピオ」のご担当者と技術者の方々の事業実施に向けた惜しみないご努力
・事業が実施できることを喜び、全て出し切ろうと頑張っていた『ふくろう』メンバー
・ホール公演を楽しみにご来場下さり、惜しみない拍手を舞台に送って下さった多くのお客様方
・『ふくろう』のパフォーマンスに見入り、聴き入っていた230人を超える「つくば」の子ども達

それぞれの姿に、これまでの本事業で感じたものと少し違う【熱量】を感じ、「公共ホール活性化」における本事業の重要な意義を強く感じた【コロナ下の「つくばカピオ」での事業】だった。

アウトリーチ進行シート（茨城県　つくば市）
大久保　真利子（サブコーディネーター）

実施日	令和４年３月１日
実施先	竹園学園つくば市立竹園西小学校
対象・実施先の情報	４年生を対象に１クラス（男性18名、女性18、合計36名）ごとに体育館で全４回実施。感染防止の観点からアーティストはマウスシールドを着用し、児童との距離は３メートル程度確保。アーティストはフロアで演奏し、児童は体育館両脇にある階段状のスペースに座る。
出演者	本田浩平（津軽三味線）、橋本大輝（津軽三味線、唄）、安藤龍正（津軽三味線、舞踊）
ねらい／目標	和楽器や民謡の魅力や楽しさを伝える

時間	内容（Lap）	具体的に行うこと、話す内容	配置・動き等
０：00	担当者によるあいさつと呼び込み		
２：00	M1（５分） 《風雪の音脈》	全員：三味線	
６：49	MC1（４分） 本田：あいさつ 自己紹介 橋本：次曲紹介と民謡の説明、民謡をはじめたきっかけ	皆さんこんにちは！今日皆さんに和楽器や民謡のかっこよさや楽しさを知ってもらうために演奏したい。僕たちは「ふくろう」というグループ。 担当と自己紹介（愛称:本田「ぽんちゃん」、橋本「ひろちゃん」、安藤「たっちゃん」）。 今日は三味線だけでなく、唄や舞踊など、それぞれが得意なものも披露する。 まずはひろちゃんの唄。民謡って知ってる？民謡は日本全国にある。ここ茨城県にもある。木を切る時の唄とか、海で魚をとる時の唄など、仕事や生活と結びついたものが多い。 僕のお父さんは三味線の先生、おばあちゃんとお母さんが民謡の唄の先生で、小さいころから民謡をやっていた。ただ僕は民謡をやっていることをお友達に言っていなかった。でも披露すると「スゴイね！」と言われるのが嬉しかった。今日はみんなからの拍手をたくさんもらうためにがんばる。民謡を始めたときに最初にならった曲で《武田節》。	本田：調弦 安藤：MC終わりでハケて衣装チェンジ
10：42	M2（３分） 《武田節》	橋本：唄、本田：三味線	
13：53	MC2（２分） 橋本：次曲紹介	次はたっちゃんの出番。島根県の民謡で《どじょう掬い踊り》。 みんな、どじょうって知ってる？見たことある？どじょうは小さい川など生息するにょろにょろとしたもの。 ヒルって知ってる？ミミズみたいな小さな生き物で、人にくっついて血を吸う。次の曲には、その二つの生き物が出てくる楽しい踊り。	本田：調弦
15：50	M3（４分） 《どじょう掬い踊り》	安藤：舞踊、橋本：唄、本田：三味線 ※曲中でどじょうを２回出し、そのタイミングで拍手を促す。	
19：56	MC3（５分） 安藤：民謡をはじめたきっかけ 本田：三味線をはじめたきっかけ	楽しかった？僕も小さい頃から、踊りや三味線をやっていた。家族全員が民謡に関わっている。小学校５年生の時にお友達の前で《どじょう掬い踊り》を披露した。恥ずかしかったけど「かっこいい！」「やってみたい！」と言われ、５年生全員で練習し全校集会でやった。みんなもたとえば《ソーラン節》や盆踊りなどをやる機会があれば、恥ずかしがらずにやってほしい。 それでは次は、ぽんちゃんの出番。みんな三味線の音を聴いたことあった？僕はみんな位の時はまだ三味線を聴いたことがなかった。 僕はひろちゃんやたっちゃんのおうちのように、家族が三味線や民謡をやっていなかった。たまたまテレビで若いお兄さんが津軽三味線の演奏をしていて、「かっこいい！」「僕もやってみたい！」と思った。おうちの人にお願いして中学２年生くらいから、三味線を習い始めた。 今日はあの時の僕のように「津軽三味線ってかっこいいな！」って思ってもらえるように精一杯演奏する。	本田：調弦 橋本：下手に控える 安藤：MC後ハケて衣装チェンジ

25：36	M4（３分） 《津軽よされ節》	本田：三味線 ※盛り上がるタイミングで、橋本が拍手を促す。	
28：47	MC4（３分） 本田：次曲紹介	次は３人で三味線を演奏する。津軽三味線のなかで一番有名な曲で《津軽じょんがら節》。「かっこいい！」と思ったら前の曲みたいに拍手してほしい。みんな誰を応援したいかな？	
31：33	M5（６分30秒） 《津軽じょんがら節》	全員：三味線	
38：15	MC5（３分30秒） 橋本：次曲紹介	次が最後の曲。たっちゃんが持っているのが「銭太鼓」。 銭太鼓は振ると音が鳴る。中には何が入ってるかな？３択だよ。１番は鈴、２番はお金、３番は貝殻。正解は２番のお金。昔はお金のことを銭と言っていた。銭太鼓は落としても成功しても良いことがあると言われている。 曲は日本で一番おめでたいと言われている民謡で《南部俵積み唄》。手拍子してね。	本田：調弦
41：42	M6（２分） 《南部俵積み唄》	安藤：舞踊、橋本：唄、本田：三味線	
43：51	MC6（１分） 本田：あいさつ	これからも僕たちは日本中、世界中で演奏する。みんなも和楽器や民謡を聴いたり見たりしたら僕たちのことを思い出してくれたら嬉しい。 そして僕たちは好きなことを仕事にしている。みんなも好きなことや興味があることなどがあれば、一生懸命に取り組んでほしい。	

竹園西小学校でのアクティビティ

実施団体：釜石まちづくり株式会社
実施時期：令和４年２月24日（木）～令和４年２月26日（土）
出演アーティスト：岡村慎太郎（三味線・十七絃）　山形光（箏）　黒田鈴尊（尺八）

アクティビティ

タイトル：やさしい《邦楽》ミニ・コンサート in 甲子小学校
期　　日：令和４年２月24日　13：25～14：10
会　　場：釜石市立甲子小学校　体育館
参 加 者：４年生　48名（教員２名含み）

当初、４学年２クラスそれぞれに分かれて実施予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、広いスペースの体育館で２クラス合同かつリモートでの実施に変更。演奏は前日ホールで収録した映像を見てもらい、コミュニケーション部分をzoomでやり取りする形。楽器紹介は会場で実物を見てもらいながらのクイズ形式を取り入れたり、映像を工夫することにより児童が飽きない構成になり、児童・教員ともにとても楽しんで頂けました。

タイトル：やさしい《邦楽》ミニ・コンサート in TETTO
期　　日：令和４年２月25日　10：30～11：20
会　　場：釜石市民ホールTETTO　ホールＡ舞台上
参 加 者：天神および只越一号復興住宅住民他　14名

ホールに近い二つの復興住宅の住民を対象にして、当初は近くの寺院で実施する予定だったが、新型コロナの影響により寺院での実施が不可となり、代わりの施設を当たったものの調整がつかなかったため、ホールＡ舞台上でのインリーチとなりました。復興住宅に入居する地元長唄三味線の先生を中心に来場いただき、演奏家にはホワイトボードに歌詞を貼り出したり、スケッチブックに曲目を書き出すなどなど工夫して頂きました。

タイトル：やさしい《邦楽》ミニ・コンサート in 平田集会所
期　　日：令和４年２月25日　14：00～14：50
会　　場：平田集会所　大会議室
参 加 者：会場周辺住民　13名

平田地区の市立公民館施設。感染拡大地域からの来訪がNGになった為、甲子小学校と同様リモートアウトリーチに変更して実施。平日の午後のやや遅い時間帯で来場がやや少ないと感じましたが、来場された方はとても興味を持って参加されていて、大変楽しんで頂く事ができました。演奏映像の合間の楽器解説やコミュニケーションも好評だったようです。

コンサート又は公募型ワークショップ等

タイトル：～やさしい＜邦楽＞コンサート～　岡村慎太郎・山形光・黒田鈴尊：箏・三味線・尺八が織りなす“和”の情景
期　　日：令和４年２月26日　13：30～15：00
会　　場：釜石市民ホールTETTO　ホールＢ
参 加 者：57名（内、一般56名、高校生以下１名）

箏・三味線・尺八のそれぞれの特徴が分かる曲と、三曲合奏の楽しさが分かる曲で構成。会場のホールＢは、壁が可動式でガラスにもできる事を活かし、敢えてガラス面にして施設屋外からもロビー側からも覗ける開放感を感じられる会場にしました。新型コロナウイルスの感染拡大が収束しない状況でしたが、当初設定していた座席数では足りないくらいの多くのお客様に来場いただき、モダンながらも和の情景を楽しんで頂く事ができました。

ホール担当者の意見・評価
釜石まちづくり株式会社　中村　仁彦

① 応募の動機・事業のねらい

製鉄所で人口も景気も良かったかつての釜石市は、家元が直接教えに来るほど邦楽文化が盛んな都市で、現在も中央で活躍されている出身邦楽演奏家がいます。その邦楽を重要な文化財産と考えて、伝統継承・次世代育成のノウハウを学び取り組みたいと考え、邦楽活性化事業に応募しました。この事業を通じて、改めて地域住民の皆さんに邦楽の良さを再認識していただくと共に、子どもたちには邦楽は「愉しい」「カッコイイ」と感じてもらいたいと思いました。

② 企画のポイント

演奏の編成を考える上では、単一の楽器ではなく、複数楽器の合奏が出来るような編成だと、子どもたちや邦楽に親しんで来なかった人たちにも楽しんでもらえるかと考えて、箏・三味線・尺八の三曲編成にしたいと考えました。また、アウトリーチおよびコンサート共に、邦楽を身近に感じられる、演奏家の息遣いや技法も感じられる様な内容にしたいと考えました。コンサートでは、地元の邦楽演奏家の方に協力を頂いて、楽器に触れられる機会も設定したいと思っていました。

③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

新型コロナウイルスの影響により、アウトリーチ実施場所の変更、演奏家が訪問しないリモートアウトリーチ（演奏は収録映像、コミュケーションはzoomでのリアルタイムのハイブリッドリモート？）への変更、一度もやったことの無いリモート現場対応、コンサート時の楽器体験コーナーの中止など。リモートアウトリーチの準備段階においては、ホールが制作する事業として映像や音響のクオリティ設定にも悩みました。

④ 上記③をどのようにクリアしたか

アウトリーチ実施場所については、感染拡大状況や訪問先施設の判断に反する事は出来ず、施設担当者も前向きだったにも関わらず泣く泣く取り止めにした施設もありましたが、甲子小学校には「どんな形でも文化芸術に触れていただく機会を提供したい」とホールとしての意向をお伝えしたところ、その趣旨をご理解を頂き中止にならずに済みました。リモートアウトリーチについては、社内別部署で落語のリモートアウトリーチ実績があったため、その担当者にアドバイスを乞いました。演奏収録においては、同じアングルの撮りっぱなしではなく、２カメラ体制で引きの映像と手元や演奏家に寄った映像を適宜スイッチングする事で、よりリアリティが出たと思われます。カメラスイッチングは、コーディネーターにご協力いただきました。

⑤ 事業を実施しての成果

令和２年３月（モデル事業）・令和３年７月と２回のコロナ中止延期を経ての事業実施で、公演を心待ちにしていた方も多かったように思います。それが予想を上回る来場者につながったと思われます。アウトリーチでは、新型コロナの影響で様々な制限があったにも関わらず、演奏家とコーディネーターの皆様にご協力をいただく事によって、クオリティを確保した映像とネット会議システムを使い、コミュニケーションもしっかり取りながら、リモートアウトリーチが出来ることが証明できました。その成果が参加された方の満足感に繋がり、邦楽を身近に感じてもらいたいとの目的は達成することができたと

思っております。

⑥　事業を実施しての反省点・課題

地域コミュニティ対象のアウトリーチでは、早めのお知らせが必要と感じました。また、“３度目の正直”がコンサートの集客につながった事の裏返しとして、その頻度と手間を掛けないと周知告知が充分に出来ない事にも思われ、ホールの企画制作担当が、告知を始める前に演奏家の公演を観に行くなど積極的に動いて、より演奏家の魅力を発信できるようにしなければならないとも感じられました。

リモートの対応では、演奏家・コーディネーターの皆様のご協力により、短時間で映像制作から本番までこなすことができましたが、演奏に対する専門知識や対応する人手の厚さが必要と感じ、ホールスタッフだけでは今回と同じクオリティで事業実施するにはハードルが高いと思われました。

⑦　今回の事業を通じて、自身の「地域」または「ホール」について改めて考えたこと

事業を実施してみると、邦楽公演や事業に対して協力的な方が多く、ホールに対する期待感を感じることがありました。邦楽に限らず、団体を構成するメンバーの高齢化によって、単独では発表会ができない芸術団体が多くなってきており、次世代育成や普及育成が急務と思われました。また、公演にいらっしゃったお客様の中には、公演で旧知の方と再会したことをきっかけにして、また文化芸術活動を再開しようと動き出された方もいて、ホールをハブにした、文化的なコミュニティ形成に役に立ったとも思われました。

【参考資料】チラシ

やさしい《邦楽》コンサート
岡村槙太郎・山形光・黒田鈴尊
箏・三味線・尺八が織りなす
“和”の情景
開場中 楽器体験コーナーあり！
コンクール受賞歴もある邦楽界の若手ホープが釜石にやって来る。
邦楽の名曲を、演奏家によるお話・解説付きでお送りします！
岡村 槙太郎
山形 光
黒田 鈴尊
令和4年 2月26日(土)
12:45 開場
13:30 開演
(15:00 終演予定)
KAMAISHI CIVIC HALL ホールB
釜石市民ホール TETTO
プログラム
チケット
プレイガイド
お問い合わせ

やさしい《邦楽》コンサート
岡村槙太郎・山形光・黒田鈴尊
箏・三味線・尺八が織りなす“和”の情景
日時 令和4年2月26日（土）12:45 開場／13:30 開演（15:00 終演予定）
会場 釜石市民ホール TETTO ホールB 岩手県釜石市大町 1-1-9
チケット
プレイガイド
楽器体験コーナー
訪問ミニコンサート
岡村 槙太郎
三味線・十七弦
山形 光
箏
黒田 鈴尊
尺八
アクセス

コーディネーターレポート
谷垣内　和子

公共ホール邦楽活性化事業における初めてのオンライン・アウトリーチ

国内で初めて新型コロナウイルス感染症例が明らかになってから３回目の春を迎えた2022年。ようやく釜石市民ホールTETTOでの公共ホール邦楽活性化事業が実現した。

■３度目の正直

令和元年度（2019）事業の一つとして、2020年３月５日から７日にかけて実施を予定していたプログラムが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため直前になって中止になったことを受け、令和３年度（2021）事業として、2021年７月15日から17日に改めて実施することになった。３月から準備を再開し、アーティスト・インタビューの動画撮り直しを行うなど、リメイクを交えながら広報物の作成を進めていた。

ところが、東京都が緊急事態措置の対象地域となったために、再度日程調整を余儀なくされ、2022年２月24日から26日の間でようやく実施に至った。

■実施までの紆余曲折～変わったこと、変わらなかったこと

アーティストは、地歌箏曲（生田流）の岡村慎太郎さんをリーダーに、箏曲（生田流）の山形光さんと尺八（琴古流）の黒田鈴尊さん。サブコーディネーター役は丹羽梓さんが担ってくれた。2019年度以来のメンバーだ。プログラムの構成も大きな変更はなく、当初考えていた内容で進行した。

準備しては中止となるケースが度重なり、その都度、スケジュールと実施先の再打診・調整が繰り返された。関係者全員がやる瀬ない思いをかみしめるほかなかった。今回も、都内ではまん延防止等重点措置が継続中で、岩手緊急事態措置期間中でもあったので、実施そのものは直前まで危ぶまれた。

アウトリーチ先は、甲子小学校の４年生２クラスと、最初に考えていた地域住民に足を運んでもらえる石応禅寺と平田集会所の３か所。学校と地域の集会所、寺院という変化に富んだロケーションで、多彩な取り組みが期待できた。しかし、１月下旬に石応禅寺から辞退の申し出があり、残る２か所についてもオンラインであれば可能ということになった。

寺院の代替施設は、想定していた観客層からすると、TETTOそのものの活用が最も現実的だった。そこでホールＡのステージを活用し、いつもと違う視角からのホール体験にもつながる工夫を凝らすことにした。

演奏会では、予定していた楽器体験は行わず、客席数も通常の半分程度に抑えるなど、コロナ感染症対策には万全を期した。

こうした紆余曲折は、結果として、長い時間をかけてプログラムの充実をはかり、関係者間に強い信頼関係を構築することにつながった。全員の目指す方向が明確になり、盤石のチームワークが形成されたと思う。

■オンライン・アウトリーチの試みと今後への期待

邦楽事業では、今までオンラインでのアウトリーチ経験はない。けれども、昨年12月にアーティスト３名とともに、ホールでの研修・現地下見を行っていたこと。TETTOの担当者である中村さんは、クラシック事業でのオンライン配信の経験があったこと。そして、何よりもこの数年間で培った信頼関係があったこと。これらの条件が整っていたので、不安はあったが、事業を断念する選択肢は全くなかっ

た。

そこで、地域創造事務局からもたらされた最新のおんかつ事業の事例等を参考にしつつ、TETTOの機材と環境面について確認した上で、演奏（動画）とライブ（トーク）を組み合わせた「ハイブリッド」の方法をとることになった。タイムラグが生じる危険性が高いので、演奏シーンだけは事前に動画を撮影しておき、それを会場で再生。それ以外のトークはzoomをつないだままにしてライブで行い、双方向性を確保するという。動画撮影に使える時間は釜石入りした日の午後と翌日の午前中のみ。録画編集の余裕はない。ホールスタッフの方々の協力を得て、一発撮りで必要な演奏シーンの撮影に取り組んだ。

生の演奏を届けられない以上、平板な映像画面に留めず、演奏する手元や口元のズームアップも見せたい。つい欲が出る。ビデオ撮影は地域創造の永田美幸さんが、スイッチャーの役割は丹羽さんが、それぞれ担ってくれた。２人の抜群の瞬発力とチームワークが生きたシーンだった。

アウトリーチそのものは、実施会場に経験豊富な中村さんと谷澤館長の２人が出向き、ホールではアーティスト以下、別のスタッフ･チームが待機していて、それぞれに機材のセッティングや操作を担った。ホールと現場を行き来し、その都度、セッティングやテストを行い、全体の進行もこなした中村さんの活躍ぶりは見事というほかない。

オンラインによるアウトリーチにはさまざまなメリットがある。ズームアップを活用すれば、間近で見る以上の観察が可能になる。また、映像再生中のわずかな時間で、アーティスト同士が相談し、軌道修正することも容易だ。遠隔地やアーティストが出向きにくい場所での実施も夢ではない。その際に、ライブとの併用はとても効果的である。

その一方で、二つの場所をつなぐために、機材・環境が整備されていることは最低条件である。それらを扱える専門スタッフ人材も不可欠だ。そうした条件が完備するケースはまだまだ十分とは言い難いように感じる。

■アウトリーチ・プログラムについて

小学校で実施したプログラムの概要は、丹羽さんが作成した進行シートをご覧いただきたい。ここでは今回のアウトリーチ・プログラムの特色について補足しておく。

公演時に楽器体験コーナーを設ける予定で、地域の演奏家から箏と三味線、尺八を借用することになっていた。コロナ対策のために体験は中止したが、その縁は活かしたい。少しでもアーティストの存在を身近に感じるツールとして、現場での楽器活用を考えた。急遽、中村さんには箏柱の立て方を学んでもらい、扱いに注意が必要な三味線は、釜石在住の長唄三味線演奏家の協力を得ることになった。

学校では、代表の子どもたちに箏の柱を立てる体験に挑戦してもらった。映像越しに見える演奏家の箏を見ながら、工夫して柱を立てることで、弦の張りの強さを体感し、箏の音がどうやって出るのかを納得してもらえたと思う。三味線のほうは、駒をかける動作を現場の演奏家に実演してもらった。ここから箏も三味線も音を出すための仕組みは同じことを理解してもらえたのではなかろうか。

尺八は、手に取れば、孔の数や大きさを確かめられる。孔を指で打てば、音の高さを知ることもできる。子どもたちが、直に触れられる楽器を借用できたことが功を奏した。

なお、平田集会所とTETTOで実施した大人向けのアウトリーチは、前者はオンラインで、後者はホールＡの舞台を使って対面形式で実施した。客席が見える位置に参加者に座ってもらったのは一定の効果があったようだ。

どちらも予想以上の方が参加してくださり、日頃からの地域との関係性の強さを感じた。オンラインでのプログラムは、小学校でのアウトリーチに準じたが、説明を少し長い目にして大人の方にも楽しんでもらえるように工夫。また、全てライブで実施できたホールでは生演奏を多くし、地歌の歌い方の体験と当意即妙なトークも盛り込まれた。これらをきっかけに翌日の演奏会に足を運んでくださった方も少なくなかったらしい。

■ホール公演について

相対する壁面がガラス張りというホールＢの特色を生かし、観客側からは街を行き交う人々を視野に入れながら舞台を見る設え。屏風の代わりが街行く人たちというのは、とても新鮮で、広々とした空間が気持ち良い。

開場前から多くの方が並び始め、コロナ対策から椅子の間隔を広くとって、通常の半分程度にセッティングした座席が、途中で足りなくなる盛況ぶり。大きな手ごたえを感じた。また、会場の一角に楽器と楽譜の展示コーナーを設けたところ、興味を示す観客も少なからずいた。

前々日にオンライン授業を行った小学校の子どもが家族に連れられてやって来たほか、平田集会所で参加した一人が、震災後の移住を経て釜石に戻ってきていたところ、今回の事業がきっかけになって、かつて釜石に住んでいた頃に箏を習っていた先生と再会し、また稽古を始めることになったという嬉しいエピソードも耳にした。

寡黙ながらも熱意をもって事業を推進してくださった中村さんをはじめ、ホールスタッフの方々の細やかな心遣いには感謝の言葉しかない。アーティストも含め、３年の時間をかけて、チームメンバー全員が釜石への思いを醸成してきた。今回のプログラムが小さなきっかけとなって、TETTOが、邦楽だけでなく、多角的な地域交流の拠点として、より一層機能して行くことを期待している。

アウトリーチ進行シート（岩手県　釜石市）
丹羽　梓（サブコーディネーター）

実施日	令和４年２月24日
実施先	甲子小学校
対象・実施先の情報	対象：４年生児童（１組23名・２組23名） 小学校体育館とTETTOホールＢをオンラインでつないで実施
出演者	岡村慎太郎（三味線）、山形光（箏）、黒田鈴尊（尺八）
ねらい／目標	オンラインの利点を生かした新しいアウトリーチ

時間	内容（Lap）	具体的に行うこと、話す内容	配置・動き等
０：00	挨拶	・zoomでホールと小学校をつなぐ ・配信場所紹介（釜石市内のホールから生配信） ・演奏者自己紹介（配布チラシを見てもらいながら） ・次の曲の紹介（春の海）	演奏者全員カメラ前にスタンバイ なるべく児童が反応できるような声かけをする
３：00	M1　春の海（４：50）	・事前収録した演奏を再生 （箏：山形、尺八：黒田）	参加者側モニターをzoomから収録映像に切り替え 手元、口元アップのカット多めの映像
７：50	楽器紹介【尺八】	・クイズ①尺八の穴はいくつ？ ・尺八の名前の由来の紹介 ・様々な長さの尺八の紹介（実演） ・クイズ②何の音を表している？ ・次の曲の紹介（奥州薩慈）	収録映像からzoom に切り替え 小学校に持参した尺八を見せる クイズは３択にして手を挙げてもらう
12：55	M2　奥州薩慈（１：50）	・事前収録した演奏を再生 （尺八：黒田）	参加者側モニターをzoomから収録映像に切り替え 口元アップのカット多めの映像
14：50	楽器紹介【箏】	・楽器の材質 ・クイズ③糸の数はいくつ？ ・箏柱の紹介 ・体験①箏柱をたててみよう ・十七絃の紹介 ・次の曲の紹介（瀬音）	収録映像からzoom に切り替え 小学校に持参した箏を使って代表児童に箏柱を立てる体験をしてもらう
24：20	M3　瀬音（０：50）	・事前収録した演奏を再生 （箏：山形）	参加者側モニターをzoomから収録映像に切り替え 手元アップのカット多めの映像
25：20	楽器紹介【三味線】	・糸が三本 ・コマの紹介 ・体験②コマを近くで見てみよう ・次の曲の紹介（たぬき）	収録映像からzoom に切り替え 小学校に持参した三味線を使って代表児童に三味線を近くでみてもらう
30：05	M4　たぬき（１：50）	・事前収録した演奏を再生 （三味線：岡村）	参加者側モニターをzoomから収録映像に切り替え 手元アップのカット多めの映像
32：15	三曲合奏について	・三曲合奏の説明 ・次の曲の紹介（尾上の松）	収録映像からzoom に切り替え 「三曲合奏」と書かれた紙を見せる

33：55	M5　尾上の松（５：40）	・事前収録した演奏を再生 （箏：山形、三味線：岡村、尺八：黒田）	参加者側モニターをzoomから収録映像に切り替え 手元、口元アップのカット多めの映像
39：40	質問コーナー	・参加者からの質問に応える	質問する児童はカメラの近くに出てきて話す
	挨拶	・公演の告知 ・ありがとうございました！	演奏者はカメラの前に近づいて手を振る

ホールからのオンラインアクティビティの様子

令和３年度
公共ホール邦楽活性化事業報告書

発行：一般財団法人地域創造
〒107-0052
東京都港区赤坂2-9-11　オリックス赤坂２丁目ビル９階
TEL：03-5573-4069
FAX：03-5573-4060
URL：http://www.jafra.or.jp/

発行日：令和４年５月